

2026年度

授業進度計画

(シラバス)

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校 歯科衛生学科1年

分野	授業科目		授業形態	単位数	時間数	期	1年		2年		3年		
	教育内容	科目名					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
													前期
基礎分野	科学的思考の基礎	生物学	講義	1	15	前期	15						
		教育方法論	講義	1	15	後期		15					
		心理学	講義	1	15	後期		15					
		人間関係論	演習	2	60	通年	30	30					
		社会人基礎講座Ⅰ	講義	1	15	後期		15					
		社会人基礎講座Ⅱ	講義	1	15	前期					15		
		情報処理Ⅰ	演習	1	30	後期		30					
		情報処理Ⅱ	演習	1	30	前期					30		
		歯科英語	講義	1	15	後期				15			
分野小計				10	210		45	105	0	15	45	0	
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学・組織発生学	講義	2	30	前期	30						
		栄養と代謝	演習	1	30	後期		30					
		生理学	講義	1	15	前期	15						
	小計				4	75		45	30	0	0	0	0
	歯・口腔の構造と機能	口腔組織発生学	講義	1	15	前期	15						
		口腔解剖学	講義	2	30	前期	30						
		歯牙解剖学	講義	1	15	後期		15					
		口腔生理学	講義	1	15	前期	15						
	小計				5	75		60	15	0	0	0	0
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	講義	1	15	前期	15						
		口腔病理学	講義	2	30	前期	30						
		薬理学	講義	2	30	後期		30					
微生物学・口腔微生物学		講義	1	15	後期		15						
小計				6	90		45	45	0	0	0	0	
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・社会福祉論	講義	2	30	前期						30		
	口腔衛生学Ⅰ	講義	2	30	前期	30							
	口腔衛生学Ⅱ（統計学含む）	演習	1	30	通年						30		
	衛生学・公衆衛生学	講義	2	30	前期						30		
小計				7	120		30	0	0	0	90	0	
分野小計				22	360		180	90	0	0	90	0	
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生学概論	講義	2	30	通年	30						
	小計				2	30		30	0	0	0	0	
	臨床歯科医学	歯科保存学	演習	1	30	後期		30					
		歯周病学	演習	1	30	後期		30					
		歯科補綴学	演習	1	30	前期			30				
		口腔外科学・麻酔学	演習	1	30	前期			30				
		小児歯科学	講義	1	15	後期		15					
		歯科矯正学	演習	1	30	前期			30				
		高齢者歯科学	演習	1	30	前期			30				
		障害者歯科学	演習	1	30	前期			30				
	小計				8	225		0	75	150	0	0	0
	歯科予防処置論	歯科予防処置論基礎	講義	1	15	前期	15						
		歯周病予防法Ⅰ	演習	1	30	後期		30					
		歯周病予防法実習Ⅰ	演習	1	30	後期		30					
		歯周病予防法Ⅱ	演習	1	30	通年			30				
		歯周病予防法実習Ⅱ	演習	2	60	通年			60				
う蝕予防法		演習	1	30	後期		30						
歯科予防処置実践実習		講義	1	15	前期					15			
小計				8	210		15	90	90	0	15	0	
歯科保健指導論	歯科保健指導論基礎	講義	1	15	前期	15							
	歯科保健指導論Ⅰ	演習	2	60	後期		60						
	栄養指導	講義	1	15	通年		15						
	歯科保健指導論Ⅱ	演習	1	30	前期			30					
	歯科保健指導演習	演習	1	30	後期				30				
	歯科保健指導論Ⅲ	演習	1	30	前期					30			
小計				7	180		15	75	30	30	30	0	

47	専門分野	歯科診療補助論	歯科診療補助論Ⅰ	演習	2	60	前期	60						
48			歯科材料学	演習	2	60	後期		60					
49			歯科診療補助論Ⅱ	演習	2	60	前期			60				
50			歯科診療補助演習	演習	1	30	後期				30			
51			臨床検査	演習	1	30	前期			30				
52			救命救急法	講義	1	15	通年					15		
			小計		9	255		60	60	90	30	15	0	
53	専門分野	臨地実習（臨床実習含む）	臨地実習Ⅰ	実習	1	45	通年	45						
54			臨地実習Ⅱ	実習	1	45	通年			45				
55			臨地実習Ⅲ	実習	7	315	通年			315				
56			臨地実習Ⅳ	実習	9	405	通年					405		
57			臨地実習Ⅴ	実習	2	90	通年					90		
					小計		20	900		45	0	360	0	495
			分野小計		54	1,800		165	300	720	60	555	0	
58	選択必須分野	選択分野	口腔機能管理学	講義	2	30	後期				30			
59			専門職連携演習	演習	1	30	前期					30		
60			歯科衛生学の統合と実践	演習	2	60	通年					60		
61			総合歯科医学セミナー	講義	2	30	後期						30	
					小計		7	150		0	0	0	30	90
			分野小計		7	150		0	0	0	30	90	30	
	授業形態別		講義		28	38	570	-	255	135		45	105	30
			演習		28	35	1,050	-	90	360	360	60	180	0
			実習		5	20	900	-	45	0	360	0	495	0
		総計			93	2,520	0	390	495	720	105	780	30	

歯科衛生学科

歯科衛生学科1年(2026年(R8)度生19期生)

カNo.	No.	科目	種別	前期(回)	後期(回)	通年科目	単位	授業担当者	ページ	
1	1	生物学	講義	8			1	村主 節雄	1	
2	2	教育方法論	講義		8		1	日高 幸亮	2	
3	3	心理学	講義		8		1	大久保 智生	3	
4	4	人間関係論	演習	15	15	○	2	副島 慶子	4	
5	5	社会人基礎講座 I	講義		8		1	横井 敦子	6	
7	6	情報処理 I	演習		15		1	田井 麻友美	7	
10	7	解剖学・組織発生学	講義	15			2	江上 洋平	8	
11	8	栄養と代謝	演習		15		1	堀澤 佳史	9	
12	9	生理学	講義	8			1	菊本 暁人	10	
13	10	口腔組織発生学	講義	8			1	岡村 純子	11	
14	11	口腔解剖学	講義	15			2	植木 匠	12	12
								大江 弥生	3	
15	12	歯牙解剖学	講義		8		1	大江 弥生	8	13
16	13	口腔生理学	講義	8			1	吉田 淳一	8	14
17	14	病理学	講義	8			1	芳地 一	8	15
18	15	口腔病理学	講義	15			2	大河原 敏博	8	16
19	16	薬理学	講義		15		2	芳地 一	8	17
								小坂 信二	7	
20	17	微生物学・口腔微生物学	講義		8		1	岡部 昭延		18
22	18	口腔衛生学 I	講義	15			2	荻野 芳		19
25	19	歯科衛生学概論	講義	15		○	2	本田 里恵・横井 敦子		20
26	20	歯科保存学	演習		15		1	岡村 純子		21
27	21	歯周病学	演習		15		1	岡村 純子		22
30	22	小児歯科学	講義		8		1	池田 耕士		23
34	23	歯科予防処置論基礎	講義	8			1	小野 愛梨		24
35	24	歯周病予防法 I	演習		15		1	小野 愛梨・太田 克子		25
36	25	歯周病予防法実習 I	演習		15		1	小野 愛梨・太田 克子		26
39	26	う蝕予防法	演習		15		1	鈴木 仁美		27
41	27	歯科保健指導論基礎	講義	8			1	本田 里恵		28
42	28	歯科保健指導論 I	演習		30		2	本田 里恵 横井 敦子・太田 克子	22	29
								松田 珠生	8	
43	29	栄養指導	講義		8	○	1	松田 珠生		31
47	30	歯科診療補助論 I	演習	30			2	鈴木 仁美 久保 直美		32
48	31	歯科材料学	演習		30		2	岡村 純子	4	34
								久保 直美	8	
								鈴木 仁美・久保 直美	18	
53	32	臨地実習 I	実習	45時間		○	1	小野 愛梨・鈴木 仁美 太田 克子・横井 敦子		36
	合計			176	251	単位計	42			

※上記は変更になることもあります。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	村主 節雄(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生体構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【実務経験有】村主 節雄:高等学校教員免許の資格を活かし、大学での指導経験をもとに、生命科学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造と機能について概説できる。 2. 細胞の基本的構造とその機能を概説できる。 3. 細胞代謝について概説できる。 4. 遺伝子と遺伝について説明できる。 5. 人体の発生の過程を説明できる。 6. 生命を構成する物質を挙げることができる。 7. 生体における化学反応について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	人体1:1編・1, 2章 P.1~44 解剖学・組織発生学・ 生理学で学ぶこと	1) 生命をつくる物質 2) 真核生物とは何か 3) 生物の変遷 4) 細胞を作る主要な元素	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の特徴 ・生命をつくる物質の構成
2	細胞の構造と機能 細胞小器官	1) 原核細胞と真核細胞の特徴 2) 真核細胞の基本的構造と働き	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞呼吸とエネルギー産生 ・細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能 ・細胞の基本的生理機能
3	上皮組織と支持組織	1) 上皮組織の種類 2) 支持組織とは	<ul style="list-style-type: none"> ・扁平上皮・円柱上皮・移行上皮 ・染色体の数と複製
4	発生	1) 遺伝子と染色体の構造 2) 遺伝子と遺伝情報	<ul style="list-style-type: none"> ・減数分裂・転写と翻訳の過程 ・肺葉の形成
5	人体2:1編・1, 2章 人体の構成要素		<ul style="list-style-type: none"> ・三肺葉の形成 ・受精と着床、胎児の発育
6	人体の構成要素 P.6~28	1) 細胞の役割 2) 人体における水 3) PHとは	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞小器官 ・酸とアルカリ ・緩衝作用とは
7		1) 人体構成成分の構造と種類	<ul style="list-style-type: none"> ・糖質、脂質、タンパク質の基本的構造 ・ビタミンとミネラル
8	人体における化学反応	1) 消化と吸収 1) 酸素の運搬と二酸化炭素の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー代謝とアデノシン三リン酸(ATP)
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
教育方法論	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	日高 幸亮
<p>[授業の目的・ねらい] 様々な立場から「教育」について学び、教育方法について具体的に考える。また、必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 課題に対する自分の意見を他者にわかるように表現できる。 2. グループワークで得られた意見を、統合して発表できる。 3. 質問に対して的確な応答ができる。 4. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点と改良点を指摘できる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	教育の現場を知る	1)教員主導型学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質 ・アクティブラーニング ・協同学習(ジグソー) ・目的の共有 ・計画
2		2)学生主導型学習	
3	グループワーク	1)「チーム」で働くためのコミュニケーション	
4	プレゼンテーション	1)内容の方向性の検討	
5		2)内容の詳細の検討	
6		3)内容の詳細の検討	
7		4)媒体の準備	
8		5)発表とまとめ、ふりかえり	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 課題発表 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	大久保 智生
<p>[授業の目的・ねらい] 良好な対人関係を構築するために、基本的な知識と人の一生の間に生じるさまざまな心理・行動上の変化である発達について、理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。 2. 動機づけを概説できる。 3. こころの健康に対する支援を概説できる。 4. こころの発達にかかわる要因を概説できる。 5. パーソナリティの特徴を概説できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	学ぶ・覚えるこころ	1)学習のプロセス 2)記憶のメカニズム	・レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ ・記憶の過程、構造
2	やる気の心理 その人らしさのパーソナリティ	1)動機づけ 2)パーソナリティの記述	・マズローの理論 ・観察法、面接法、性格検査法
3	発達するこころ	1)「発達」を考える	・発達、成長
4		2)発達段階と発達課題	・エリクソンの精神発達理論 ・ピアジェの思考発達段階説
5		3)乳幼児期から児童期のこころの発達	・発達障害
6		4)青年期	・自己概念とアイデンティティ
7		5)成人期 6)高齢期	・加齢現象、自己実現 ・結晶性知能、流動性知能
8	人と関わる心理	1)対人認知 2)帰属理論 3)対人魅力	・第一印象、親近効果 ・原因の帰属 ・近接性、身体的魅力、類似性、承認
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてプリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
人間関係論	歯科衛生学科/1年次	2026年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	副島 慶子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。 教育理念であるホスピタリティ(おもてなしの心)実現に向けた土台作りをする。 【実務経験有】副島 慶子:大学などでコミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分を観察し、内省することができる。 2. 自分の直感やひらめきを信じ、行動に移すことができる。 3. 自分を含めたひとの感情を丁寧に扱い、共感を持って他者を受け入れることができる。 4. 非言語ツールやユーモア等がもたらす、「伝わりやすい」「つながる」表現を心がけるようになる。 5. グループにて、リーダーシップおよび建設的な関係を形成できる。 			
[授業の内容]			
回	単元	内容	学習のポイント
1	序論	1)コミュニケーションとは?	
2	観察すること	1)見ているようで見ていない自分を知る	・未熟さを認めること
3		2)見る意識を持つ	・気づくこと
4		個人への尊重	1)人の「違い」を理解する
5	聴くこと	2)他者を受け入れる	・正直さ ・柔軟性
6		1)カラダ全体で聴く	・そこにいること
7		2)より多くの情報を聴く	・「心ある」聴きかた
8	想像力	3)自分を見つめる	・ひらめき
9		1)想いを「視覚化」する	・具体化すること
10		2)他者の状況や物事の流れを予測する	・わかろうとすること
11	身体表現	3)これからを考える	・イメージの整理
12		1)カラダ全体を使った表現を意識する	・わかりやすい表現
13		2)声に注目する	・コミットメント
14		3)非言語コミュニケーションを活用する	・「伝えよう」とする意識
15		4)リラックスした身体を知る	・息を合やすこと
			※ 次のページに続く
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて ログを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 授業評価・レポート評価 : 100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	信頼関係	1)心地良いボディタッチと声	・カラダに感謝する
17		2)信頼とは何か？	・状況を楽しむ ・安心感
18		3)チームワーク	・相手を感じる ・自分を信じる
19		4)抱える環境づくり	・リーダーシップ
20	そこにいること	1)自ら携わろうとする心	・プレゼンス
21		2)積極性	・レディネス
22	感情表現	1)感情のあれこれ	
23		2)自分の感情を表現する	・見える表現と見えない表現
24		3)他者の感情に寄り添う	・シェアリング
25	YES, AND	1)「NO, BUT」: 否定・批判の感情プロセス	・待つこと
26		2)「YES, AND」: 肯定・付加の感情プロセス	・何に「YES」か？
27		3)「YES, AND」の法則を活用する	・状況に「YES」するゆとり
28		4)「YES, BUT」: 肯定・修正(昇華)の方法	・チア&プッシュ
29		5)ディスカッション	・対話≠会話
30	まとめ	1)ジャーニーの作成	・成長を感じる

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																													
社会人基礎講座 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習																													
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者																													
8回	1単位(15 時間)	必 須	横井 敦子 (実務経験有)																													
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>社会人、歯科衛生士に対し歯科医療現場および他職種連携のチームの一員として求められる行動、姿勢を改めて考える。患者に対し感じの良い立ち振る舞いや言葉遣いなど医療人として適切な対応力とは何かを話し合い主体的、意識的に非認知能力を高める学習の単位とする。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、歯科衛生士の態度と思考を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1. 社会人としてふさわしい考え方、行動、言葉遣いが実践できる。 2. 歯科医療現場で求められる倫理を知り、医療人としての姿勢および態度を身に付けることができる。 3. 対象者の立場で考えることができ、好感を持たれる態度を意識化、習慣化する。</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 50%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>歯科衛生士と医療倫理</td> <td>1)倫理の必要性 2)歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 3)社会人としての倫理 4)歯科衛生士の倫理綱領</td> <td rowspan="8"></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非認知能力</td> <td>1)非認知能力とは 2)自己を振り返る</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>3)自己表現力 4)主体性</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ホスピタリティーとは何か</td> <td>1)自分の周りで起こるホスピタリティーの探索 2)理想とする医療人についての意見交換</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>医療人としての心構え</td> <td>1)安心安全を考える 2)患者に対する柔軟的な対応力</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>目標</td> <td>1)自身の歯科衛生士像を具体化する 2)段階別自己目標シートを作成する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>正しい姿勢</td> <td>1)正しい姿勢のとは 2)姿勢と口・歯の関係 3)姿勢と発達</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>4)正しい姿勢と口腔機能 5)体感を鍛える</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	歯科衛生士と医療倫理	1)倫理の必要性 2)歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 3)社会人としての倫理 4)歯科衛生士の倫理綱領		2	非認知能力	1)非認知能力とは 2)自己を振り返る	3		3)自己表現力 4)主体性	4	ホスピタリティーとは何か	1)自分の周りで起こるホスピタリティーの探索 2)理想とする医療人についての意見交換	5	医療人としての心構え	1)安心安全を考える 2)患者に対する柔軟的な対応力	6	目標	1)自身の歯科衛生士像を具体化する 2)段階別自己目標シートを作成する	7	正しい姿勢	1)正しい姿勢のとは 2)姿勢と口・歯の関係 3)姿勢と発達	8		4)正しい姿勢と口腔機能 5)体感を鍛える
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																													
1	歯科衛生士と医療倫理	1)倫理の必要性 2)歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 3)社会人としての倫理 4)歯科衛生士の倫理綱領																														
2	非認知能力	1)非認知能力とは 2)自己を振り返る																														
3		3)自己表現力 4)主体性																														
4	ホスピタリティーとは何か	1)自分の周りで起こるホスピタリティーの探索 2)理想とする医療人についての意見交換																														
5	医療人としての心構え	1)安心安全を考える 2)患者に対する柔軟的な対応力																														
6	目標	1)自身の歯科衛生士像を具体化する 2)段階別自己目標シートを作成する																														
7	正しい姿勢	1)正しい姿勢のとは 2)姿勢と口・歯の関係 3)姿勢と発達																														
8		4)正しい姿勢と口腔機能 5)体感を鍛える																														
			事前学習																													
			次回の授業内容をふまえて 日常生活で実践する																													
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																														
「熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材」 配布プリント		1) レポート・課題評価 : 90% 2) 出席率 : 10%																														

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科	年度 / 時期	授 業 形 態
情報処理 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30時間)	必須	田井 麻友美 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 情報技術の基礎となるコンピュータ基礎知識ならびに技法を習得する。 Wordソフトの基礎を理解し、パソコンを使った一般的な文書作成の基礎と文書表現の方法を身につける。 Excelソフトの基礎を理解し、パソコンを使った表およびグラフが作成できる技術を身につける。</p> <p>【実務経験有】田井 麻友美:MCT2010等の資格をもち、企業等での指導経験も踏まえて、学生が社会に出てから必要なスキルを教授できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. コンピュータを構成する基本的装置を列記できる。 2. ワードソフト、表計算ソフトおよびグラフィックソフトを用いて資料が作成できる。 3. ソフトウェア使用上のルールとマナーを述べることができる。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	Wordの基本	1)Wordの起動と終了 2)Wordの画面構成	・Windowsの概要、Wordの概要を学習する ・Wordの画面の名称と役割
2	文字の入力と編集の 基本操作	1)文字の入力方法をマスターする 2)文書の保存	・漢字の変換、変換候補の選択 ・名前をつけて保存
3	文書の編集	1)ページの書式設定 2)文字幅と文字間隔の設定	・ページ設定 ・右揃え、中央揃え、インデント
4	文書の印刷	1)改ページの挿入・ヘッダーとフッターの設定 2)段落番号の書式設定・タブ・インデント	・印刷プレビュー
5	文書の作成	3)ビジネス文書の作成例	・表の構成、表の作成方法 ・表、行、列、範囲選択
6	表を使った文書の作成	1)表の作成 2)表の編集	・簡条書き ・ヘッダー・フッター
7		3)文字列から表を作成する	・クリップアート ・ワードアート
8	図や画像を使った 文書の作成	1)図形の作成・編集 2)テキストボックス・ワードアートの挿入	
9	Excelの基本 データの編集	1)Excelの基本要素と基本動作 2)データの入力・関数の入力	・Excelの画面の名称と役割 ・データの移動、コピー、クリア
10	表の編集	1)罫線の設定 2)セルの書式設定	・相対参照、絶対参照を学習する ・セルを結合して中央揃え
11		3)表示形式の設定 4)列幅や行の高さの調整	・フォントサイズ、フォントの色の設定 ・行の削除・挿入
12	ブックの印刷	1)ページ設定の変更 2)印刷範囲の指定	・改ページプレビュー
13	グラフと図形の作成	1)グラフの作成	・グラフツール ・グラフのスタイル
14	グラフと図形の作成 ブックの利用と管理	2)図形の作成 1)ワークシートの管理	・作業グループ ・MAX関数、MIN関数、COUNT関数
15	関数	1)統計関数 2)数学/三角関数	・SUM関数、AVERAGE関数を学習する
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・「Microsoft Word2021&Excel2021」 富士通エフ・オー・エム株式会社 FOM出版		1) 科目終了時の試験評価 : 60% 2) 課題提出状況 : 30% 3) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学・組織発生学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	江上 洋平(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】江上 洋平:組織細胞生物学に精通し大学講師として長年の講師経験を活かし人体の構造と機能に関する基礎知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体の部位を解剖学的な名称で表現できる。 2. 皮膚と粘膜の構造と機能を概説できる。 3. 筋組織の構造と機能を概説できる。 4. 体循環と肺循環について説明できる。 5. 神経系の概要を学び脳神経の構造を理解する。 6. 心臓の構造をスケッチし、各構造の名称を記入できる。 7. 粘膜の構造を理解する。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	2章 発生	解剖学とは 1)組織とは	胎児の成長と発育 受精と着床、胚葉
2	II編構造と機能	1)骨の形態と構造	破骨細胞 リモデリング
3	1章骨格系		骨の連結
4	2章筋と運動	1)筋の構造	起始・停止
5	3章消化吸収	1)消化器の構造	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸 肝臓、胆のう、すい臓
6	4章循環	1)血管の構造	心臓の動脈と静脈
7		2)心臓の内部構造	血液
8		3)動脈、静脈、リンパ	胎児循環
9	5章感覚	1)皮膚の構造	
10			視覚器、聴覚平衡覚器、味覚器、臭覚器
11	6章神経系	1)神経系の基本構造	脳の血管
12	7章呼吸	2)中枢神経系 1)呼吸とは	鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭
13	8章腎機能と排尿	2)呼吸器の構造 1)泌尿器の構造	気管、気管支、肺
14	9章内分泌	1)内分泌の構造	下垂体、甲状腺、上皮小体
15	10章生殖		
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 「歯科衛生士書き込み式学習ノート① 専門基礎科目編」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
栄養と代謝	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	堀澤 佳史 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 生命現象を分子レベルの化学反応として理解する。この単元では特に歯学に特徴的な事項について学ぶ。</p> <p>【実務経験有】堀澤 佳史: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生化学と口腔生化学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖質、脂質、タンパク質の代謝を説明できる。 2. アミノ酸からタンパク質が合成される過程が説明できる。 3. 生体の恒常性を概説でき、ホルモン系と自律神経系を概説できる。 4. 歯の硬組織および唾液の生化学について説明できる。 5. デンタルプラークの生化学を学び、齲蝕と歯周疾患への関わりを説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	3章糖質・脂質・たんぱく質の代謝	歯科衛生士が生化学で学ぶ意義 1) エネルギー代謝の全体像	・ピルビン酸・アセチルCoA・クエン酸回路
2		2) グリコーゲンの合成と分解	
3	4章糖質・脂質・タンパク質代謝の相互関連	3) 脂質の代謝とエネルギーの生成 1) タンパク質の加水分解・タンパク質の合成	・DNA
4	5章遺伝子とタンパク質合成		
4	6章人体における恒常性の維持	1) 恒常性とは 2) 血糖値	・ホルモン系と自律神経系
5	II編口腔の代謝と機能		・コラーゲン・エラスチン
6	1章歯と歯周組織の生化学	1) 歯と歯周組織 2) 歯の組成	・プロテオグリカン ・タンパク質の合成 ・細胞外マトリックス
7		・結合組織の組成と機能 ・接着性たんぱく質 ・歯の無機成分 ・歯の有機成分	・リン酸カルシウム・ヒドロキシアパタイト・フッ素 ・エナメルたんぱく質・アメロゲン・エナメルリン
8	2章硬組織の生化学	1) 血清カルシウムの恒常性とその調整機構 2) 骨形成と石灰化の仕組み 3) 骨吸収と骨リモデリング・骨芽細胞と破骨細胞	・歯の脱灰・再石灰化・キレート作用
9			
11	3章唾液の生化学	1) 唾液の組成と機能 2) 無機質の組成と機能	・無機質の組成と機能 ・有機質の組成と機能
12			・糖タンパク質とタンパク質 ・酵素・抗菌因子
13	4章プラークの生化学	1) プラークとバイオフィルム	・酸産生・PH・耐酸性 ・Stephenカーブと脱灰・再石灰化
14		・プラークの形成 ・プラークのう蝕発生機構 ・代用甘味料 ・プラークによる歯周疾患発生機構	・菌体外多糖・食生活 ・歯面付着能・酸産生能
15			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	菊本 暁人(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。 【実務経験有】菊本 暁人:看護師の資格を活かし、臨床経験をもとに生理学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 細胞の基本的機能の知識を学び理解する。 2. 心臓の機能、心筋の特徴、刺激伝導系を概説できる。 3. 血圧と心電図についてわかりやすく説明できる。 4. ニューロンとは何か言える。 5. 特殊感覚、体性感覚、内臓感覚と感覚器について概説できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生理学で学ぶこと	1)生理学とは	・なぜ生理学・口腔生理学を学ぶのか
2	II編 1章骨格系 2章筋と運動	1)筋の機能 2)運動ニューロン 3)筋電図	筋収縮機構 ・骨格筋・心筋・平滑筋 ・運動ニューロン・反射・随意運動 ・伸張反射と膝蓋腱反射 ・筋紡錘、筋電図
3	3章消化・吸収	1)口腔での消化 2)胃・小腸・大腸の機能	脊髄反射
4	4章循環	1)血管の機能 2)血液	赤血球、白血球、血小板、血漿 一次止血、二次止血 体循環、肺循環
5	6章神経系	1)神経細胞の興奮電動 2)中枢神経、脳神経、自律神経	活動電位、シナプス 交感神経、副交感神経
6	5章感覚	1)胸郭の構造と換気の仕組み 2)排気量と換気量	感覚の性質と種類 体性感覚
7	7章呼吸	1)血液中のO ₂ とCO ₂ の運搬 2)呼吸の調節	感覚の性質と種類 体性感覚
8	9章内分泌	1)内分泌器官とホルモン 2)内分泌の機能	特殊感覚器 感覚野
8	8章腎機能と排尿 11章体温	3)歯、歯周組織、顎顔面とホルモン 1)排泄、排便、発汗 2)体温の調節 3)体温の変動	外皮
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔組織発生学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	岡村 純子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の組織・発生に関する基本知識を習得し、顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する知識を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顔面・口腔・歯・歯周組織の発生について説明できる。 2. 口蓋裂と顔面裂について説明できる。 3. 舌の発生について説明できる。 4. エナメル質・セメント質・象牙質の形成について説明できる。 5. 歯の萌出過程と歯の交換について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	Ⅱ 編歯および歯周組織の発生 顔面と口腔の発生	1) 鰓弓の形成 2) 突起の形成と癒合 3) 口蓋の形成 4) 舌の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・顔面と頭部の原基 ・口唇裂・口蓋裂
2		5) 腺の形成 6) 舌の形成	
3	歯と歯周組織の発生	1) 先行歯の発生 2) 代生歯および加生歯 3) 歯の萌出	<ul style="list-style-type: none"> ・硬組織の発生 ・歯提・蕾状期・帽状期・鐘状期 ・萌出前期・萌出期・機能期 ・二生歯性
4			
5		4) 歯の脱落と交換	
6		5) 歯の萌出の臨床的考察	
7	口腔の組織を理解する実習		
8			
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																																	
口腔解剖学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習																																																	
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者																																																	
15回	2単位 (30 時間)	必 須	植木 匠・大江 弥生 (実務経験有)																																																	
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。</p> <p>【実務経験有】植木 匠: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。 大江 弥生: 歯科技工士の資格を活かし、業務経験をもとに口腔・歯牙の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔周囲の各部位の名称を説明できる。 2. 口腔を構成する骨を説明できる。 3. 頭頸部の筋と作用、顎関節の構造と機能、口腔周囲の脈管及び神経を説明できる。 4. 咽頭と咬頭の構造が説明できる。 5. 歯の形態と特徴を歯種別に説明できる。 6. 歯の形態異常が説明できる。 <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 40%;">内 容</th> <th style="width: 35%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">I 編 歯・口腔の構造 1章口腔とその周囲の 解剖学</td> <td>1) 口腔とは</td> <td>・口腔前庭と固有口腔</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="3">3章歯および歯周組織 の構造と機能</td> <td>1) エナメル質</td> <td rowspan="3">・永久歯の硬組織の比較 ・存在する構造物 ・成長線 ・加齢変化</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2) 象牙質・歯髄複合体</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3) セメント質 4) 歯槽骨・歯根膜・歯肉</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="2">1章口腔とその周囲の 解剖学</td> <td>2) 口腔を構成する骨</td> <td rowspan="2">・口蓋・舌・頬・唾液腺・咽頭・喉頭 ・頭蓋骨 ・上顎骨 ・下顎骨</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td rowspan="3">3) 頭頸部の筋と作用</td> <td rowspan="3">・顎関節・副鼻腔・頭頸部の筋 ・咀嚼筋 ・舌骨上筋群・舌骨下筋群</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td rowspan="2">4) 顎関節</td> <td rowspan="2">・動脈・静脈系・リンパ節 ・脳神経の種類</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td rowspan="2">5) 口腔周囲の脈管 6) 神経</td> <td rowspan="2">・三叉神経 ・顔面神経</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td>7) 咽頭・喉頭の構造 8) 嚥下に関する筋</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	I 編 歯・口腔の構造 1章口腔とその周囲の 解剖学	1) 口腔とは	・口腔前庭と固有口腔	2			3	3章歯および歯周組織 の構造と機能	1) エナメル質	・永久歯の硬組織の比較 ・存在する構造物 ・成長線 ・加齢変化	4	2) 象牙質・歯髄複合体	5	3) セメント質 4) 歯槽骨・歯根膜・歯肉	6	1章口腔とその周囲の 解剖学	2) 口腔を構成する骨	・口蓋・舌・頬・唾液腺・咽頭・喉頭 ・頭蓋骨 ・上顎骨 ・下顎骨	7		8		3) 頭頸部の筋と作用	・顎関節・副鼻腔・頭頸部の筋 ・咀嚼筋 ・舌骨上筋群・舌骨下筋群	9		10		11		4) 顎関節	・動脈・静脈系・リンパ節 ・脳神経の種類	12		13		5) 口腔周囲の脈管 6) 神経	・三叉神経 ・顔面神経	14		15		7) 咽頭・喉頭の構造 8) 嚥下に関する筋	
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																																	
1	I 編 歯・口腔の構造 1章口腔とその周囲の 解剖学	1) 口腔とは	・口腔前庭と固有口腔																																																	
2																																																				
3	3章歯および歯周組織 の構造と機能	1) エナメル質	・永久歯の硬組織の比較 ・存在する構造物 ・成長線 ・加齢変化																																																	
4		2) 象牙質・歯髄複合体																																																		
5		3) セメント質 4) 歯槽骨・歯根膜・歯肉																																																		
6	1章口腔とその周囲の 解剖学	2) 口腔を構成する骨	・口蓋・舌・頬・唾液腺・咽頭・喉頭 ・頭蓋骨 ・上顎骨 ・下顎骨																																																	
7																																																				
8		3) 頭頸部の筋と作用	・顎関節・副鼻腔・頭頸部の筋 ・咀嚼筋 ・舌骨上筋群・舌骨下筋群																																																	
9																																																				
10																																																				
11		4) 顎関節	・動脈・静脈系・リンパ節 ・脳神経の種類																																																	
12																																																				
13		5) 口腔周囲の脈管 6) 神経	・三叉神経 ・顔面神経																																																	
14																																																				
15		7) 咽頭・喉頭の構造 8) 嚥下に関する筋																																																		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																		
・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・「口腔顎顔面解剖ノート」学研書院 ・「歯科衛生士書き込み式学習ノート①」医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%																																																		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯牙解剖学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	大江 弥生(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。</p> <p>【実務経験有】大江 弥生:歯科技工士の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯冠と歯根の形態の特徴を説明できる。 2. 歯の形態異常が説明できる。 3. 永久歯と乳歯の違いを説明できる。 4. 歯の形態と特徴を歯種別に説明できる。 5. 歯型彫刻を作成し歯の形態を理解することができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	I 編2章歯の形態	1)歯の構造・種類・記号 2)歯冠と歯根の形態 3)永久歯の形態学的特徴 4)乳歯の形態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・歯種の鑑別 ・咬合彎曲の種類、歯列と頭蓋、咬合の形 ・スピー彎曲、ウィルソン彎曲、モンソンカーブ ・カンペル平面、フランクフルト平面 ・空隙・下顎位
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8	歯・口腔の形態を理解するための実習	1)形態学的特長 全永久歯 全乳歯	歯型彫刻実習 <ul style="list-style-type: none"> ・上顎中切歯 ・上顎第一大臼歯 ・下顎第一大臼歯 ★歯型彫刻提出
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・「口腔顎顔面解剖ノート」学研書院 ・「歯科衛生士書き込み式学習ノート」医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 50% 2) 提出物(歯型彫刻) : 40% 3) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔生理学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	吉田 淳一(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するため、また機能障害を予防治療するための知識を身につける。 【実務経験有】吉田 淳一: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔生理に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 口腔顔面領域の感覚神経機構、触圧覚が説明できる。 2. 味覚と嗅覚について説明できる。 3. 下顎位、下顎反射を説明できる。 4. 嚥下と嘔吐について説明できる。 5. 唾液の分泌機構、成分、生理作用について説明できる。</p>			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	Ⅲ編歯・口腔の機能 1章 歯・口腔・顔面の感覚	1) 歯の感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・圧覚 ・歯髄の感覚 ・関連痛
2	2章 味覚と嗅覚	2) 口腔粘膜の感覚 1) 味覚	<ul style="list-style-type: none"> ・味覚の役割 ・味蕾(未覚受容器) ・味覚神経、味覚障害と味盲
3	3章 咬合と咀嚼・吸啜	2) 嗅覚 1) 下顎位 2) 下顎の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・嗅覚の役割 ・下顎安静位、咬頭嵌合位、中心位、中心咬合位 ・下顎運動、下顎限界運動、咀嚼筋 ・下顎の運動に関与する筋
4		3) 顎反射 4) 摂食行動 5) 咀嚼能力 6) 吸啜	<ul style="list-style-type: none"> ・閉口反射、開口反射 ・咀嚼
5	4章 嚥下と嘔吐	1) 嚥下時の食塊の動き 2) 嘔吐の神経機構	<ul style="list-style-type: none"> ・咽頭、鼻腔・口腔・喉頭 ・上咽頭、中咽頭、下咽頭 ・嚥下の概要 ・嚥下に関与する筋群
6	5章 発声・発語	1) 発声機構の概要 2) 声の生成 3) 言語音の形成 4) 歯と口腔の病態と発音	
7	6章 唾液	1) 唾液腺 2) 唾液の分泌機構 3) 唾液の性状・成分と機能 4) 唾液と疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・構音 ・声帯 ・機能性構音障害、器質的構音障害、運動障害性構音障害 ・大唾液腺、小唾液腺
8			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・「歯科衛生士書き込み式学習ノート①」医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	芳地 一(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】芳地 一: 薬剤師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因の内因と外因について説明できる。 2. 退行性病変である代謝障害の変性・萎縮・壊死についての基礎知識を身につけ、それぞれ概説できる。 3. 進行性病変である増殖と修復についての基礎知識を身につけ、肥大、増生、化生、再生について説明できる。 4. 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違がポイントを絞って説明できる。 5. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	病理学序論	1) 疾病の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常性、病態 ・完全治癒、不完全治癒 ・栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子 ・染色体、先天異常、遺伝病
	病因論	2) 内因・外因	
2	遺伝性疾患と奇形	1) 遺伝性疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・器官形成期 ・重複奇形、単体奇形 ・体液、体循環、肺循環 ・虚血、充血、うっ血、出血、浮腫、ショック ・血栓症、塞栓症、器質化、動脈硬化症
		2) 奇形	
3	循環障害	1) 循環血液量の異常	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞障害因子 ・退行性病変、進行性病変 ・タンパク質変性、硝子変性、脂肪変性 ・萎縮、アポトーシス ・肥大、増生、化生 ・不安定細胞、安定細胞、永久細胞 ・肉芽組織 ・一次治癒、二次治癒、器質化 ・5大徴候、免疫反応、組織学的変化 ・ケミカルメディエーター、炎症に関与する細胞 ・炎症の分類、急性、慢性 ・病原微生物、菌交代現象、日和見感染 ・抗原抗体反応、免疫グロブリン ・一次応答、二次応答 ・アレルギーの分類(I～IV) ・自己免疫疾患、免疫不全症 ・発がん因子、がん遺伝子
		2) 閉塞性の循環障害	
4	代謝障害と退行性病変	1) 細胞障害	<p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>今回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する</p>
		2) 変性と物質代謝障害	
5	増殖と修復	1) 再生と修復	
		2) 創傷治癒	
6	炎症	1) 炎症とは	
		2) 炎症の分類	
		3) 感染症	
7	免疫応答異常	1) 免疫応答	
		2) アレルギー	
8	腫瘍	1) 腫瘍の発生	
		2) 腫瘍の種類と性質	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔病理学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	大河原 敏博(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】大河原 敏博: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔内の疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の発育障害の種類と病態を相互で説明することができる。 2. 象牙質・セメント質の増生と歯根膜の石灰化についての知識を身につけ患者に説明できる。 3. う蝕の病因と病態を図を使用して患者に説明できる。 4. 歯髄・歯周組織の病変についての基礎知識を身につけ、病名と症状を専門用語で説明できる。 5. 口腔粘膜創と拔牙創の治癒について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯の発育異常 歯の損傷と着色・付着物	1) 大きさ・歯数・形・構造の異常	<ul style="list-style-type: none"> ・局所的な原因と全身的な原因 ・色の異常(ポルフィリン・黄疸・テトラサイクリン)
2		2) 物理的損傷、歯の着色、プラーク	
3	う蝕	1) う蝕の疫学、組織学的分類	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔細菌、多因子性疾患 ・発生機序 ・エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕
4		2) う蝕の組織学的変化	
5	象牙質・歯髄複合体の病態	1) 歯髄炎	<ul style="list-style-type: none"> ・病因と発生機序 ・急性歯髄炎、慢性歯髄炎 ・第二象牙質、第三象牙質
6		2) 象牙質の増生、象牙質知覚過敏症	
7	歯周組織の病態	1) 病因と発生機序	<ul style="list-style-type: none"> ・根尖部歯周組織の病変(炎症) ・歯肉炎、辺縁性歯周炎、急性壊死性潰瘍性歯肉炎、薬物性歯肉増殖症、若年性歯周炎、咬合性外傷
8		2) 辺縁部歯周組織の病変	
9	口腔粘膜の病変 口腔領域の嚢胞と腫瘍	1) 口腔粘膜の特徴・病変	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルペスウイルス感染、手足口病 口腔カンジダ症、扁平苔癬 ・歯原性嚢胞(歯根嚢胞・原始性嚢胞・含歯性嚢胞) ・非歯原性嚢胞(粘液嚢胞・術後性上顎嚢胞)
10		2) 口腔領域の嚢胞と腫瘍	
11	口腔癌 顎骨の病変	1) 前癌病変	<ul style="list-style-type: none"> ・白板症、紅板症 ・扁平上皮癌 ・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死
12		2) 顎骨骨髓炎	
13	唾液腺の病変	1) 唾液腺に発生する病変	<ul style="list-style-type: none"> ・流行性耳下腺炎、シェーグレン症候群 ・多形腺腫、ワルチン腫瘍、粘表皮癌
14		2) 良性腫瘍と悪性腫瘍	
15	口腔領域の奇形 口腔組織の加齢変化	1) 口腔顎顔面の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂、顔面披裂 ・エナメル質の変化、象牙質の変化、セメント質の変化
		2) 口腔組織の加齢変化	
[使用テキスト]			事前学習
歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験等の評価方法)	
		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 90%
		2) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																																															
薬理学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習																																																															
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者																																																															
15回	2単位 (30 時間)	必 須	芳地 一・小坂 信二 (実務経験有)																																																															
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】芳地 一・小坂 信二:薬剤師の資格を活かし、大学病院の業務経験をもとに薬剤に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理作用(薬物の作用)について基本的形式と分類を説明できる。 2. 薬物の作用機序について説明できる。 3. 協力作用、拮抗作用、相互作用について例を挙げながら説明することができる。 4. 神経系に作用する薬物の種類を列挙できる。 5. 痛みや炎症に対する薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。 <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 15%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 35%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="3">総論</td> <td>1)薬物の定義と分類</td> <td>・日本薬局方及び局方薬、毒薬、劇薬、麻薬、医薬部外品 ・薬物の用量と作用、生体の感受性・プラセボ効果含む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="2">2) 薬物の作用・副作用</td> <td rowspan="2">・薬物の副作用、有害作用 ・協力作用、拮抗作用、相互作用、蓄積、耐性、依存</td> </tr> <tr> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td rowspan="2">末梢神経と薬</td> <td>1)末梢神経に作用する薬物</td> <td>・自律神経系作用薬</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td rowspan="2">局所麻酔薬</td> <td>1)局所麻酔薬とは</td> <td>・局所麻酔薬</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td rowspan="2">痛みと薬</td> <td>1)鎮痛薬とは</td> <td>麻薬性鎮痛薬・解熱性鎮痛薬</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td rowspan="2">炎症と薬</td> <td>1)炎症とは</td> <td rowspan="2">・ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性 抗炎症薬、抗ヒスタミン薬</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2)炎症に作用する薬物</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td rowspan="2">血液と薬</td> <td>1)血液凝固</td> <td rowspan="2">・血液タンパク質凝固薬、血液凝固促進薬、血管 収縮薬、毛細血管強化薬、抗プラスミン薬</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>2)血液に関連する薬物</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td rowspan="2">感染症と薬</td> <td>1)抗感染症薬</td> <td rowspan="2">抗菌薬・消毒薬</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2)消毒薬</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: center;">事前学習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	総論	1)薬物の定義と分類	・日本薬局方及び局方薬、毒薬、劇薬、麻薬、医薬部外品 ・薬物の用量と作用、生体の感受性・プラセボ効果含む	2	2) 薬物の作用・副作用	・薬物の副作用、有害作用 ・協力作用、拮抗作用、相互作用、蓄積、耐性、依存	3	4				5	末梢神経と薬	1)末梢神経に作用する薬物	・自律神経系作用薬	6			7	局所麻酔薬	1)局所麻酔薬とは	・局所麻酔薬	8			9	痛みと薬	1)鎮痛薬とは	麻薬性鎮痛薬・解熱性鎮痛薬	10			11	炎症と薬	1)炎症とは	・ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性 抗炎症薬、抗ヒスタミン薬	12	2)炎症に作用する薬物	13	血液と薬	1)血液凝固	・血液タンパク質凝固薬、血液凝固促進薬、血管 収縮薬、毛細血管強化薬、抗プラスミン薬	14	2)血液に関連する薬物	15	感染症と薬	1)抗感染症薬	抗菌薬・消毒薬		2)消毒薬				事前学習				次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																																															
1	総論	1)薬物の定義と分類	・日本薬局方及び局方薬、毒薬、劇薬、麻薬、医薬部外品 ・薬物の用量と作用、生体の感受性・プラセボ効果含む																																																															
2		2) 薬物の作用・副作用	・薬物の副作用、有害作用 ・協力作用、拮抗作用、相互作用、蓄積、耐性、依存																																																															
3																																																																		
4																																																																		
5	末梢神経と薬	1)末梢神経に作用する薬物	・自律神経系作用薬																																																															
6																																																																		
7	局所麻酔薬	1)局所麻酔薬とは	・局所麻酔薬																																																															
8																																																																		
9	痛みと薬	1)鎮痛薬とは	麻薬性鎮痛薬・解熱性鎮痛薬																																																															
10																																																																		
11	炎症と薬	1)炎症とは	・ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性 抗炎症薬、抗ヒスタミン薬																																																															
12		2)炎症に作用する薬物																																																																
13	血液と薬	1)血液凝固	・血液タンパク質凝固薬、血液凝固促進薬、血管 収縮薬、毛細血管強化薬、抗プラスミン薬																																																															
14		2)血液に関連する薬物																																																																
15	感染症と薬	1)抗感染症薬	抗菌薬・消毒薬																																																															
		2)消毒薬																																																																
			事前学習																																																															
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する																																																															
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																																
・歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%																																																																

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
微生物学・口腔微生物学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	岡部 昭延(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】岡部 昭延:医師の資格を活かし、大学での講義経験をもとに微生物学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌とウイルス、その他の微生物の形態的特徴と基本性状について概説できる。 2. 細菌の培養法、顕微鏡観察法の知識を身につけることができる。 3. 感染症の種類と、感染源・感染経路について説明できる。 4. 自然免疫と獲得免疫についてそれぞれ説明できる。 5. 歯周病原菌を列挙できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	疾病と微生物	1)疾病と微生物、免疫学 2)感染と感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・病原微生物・ウイルスの発見の歴史 ・細菌(形態・構造・代謝・増進) ・ウイルス(構造・増殖) ・ヘルペスウイルス ・口腔カンジダ症の症状
2	微生物の病原性	<ol style="list-style-type: none"> 1)微生物の位置づけ 2)細菌・ウイルス 3)歯科に関連するウイルスとウイルス感染症 4)真菌・原虫 	
3	宿主防御機構と免疫	1)宿主防御機構	<ul style="list-style-type: none"> ・自然免疫、粘膜免疫・全身免疫
4		<ol style="list-style-type: none"> 2)免疫機構 3)免疫の種類 4)ワクチン 5)液性免疫と細胞性免疫 6)アレルギー(過敏症) 	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫機構の発現と調節 ・能動免疫と受動免疫・自己免疫疾患 ・不活化ワクチン、トキシイド ・抗原抗体反応、補体、遅延型過敏症 ・I型アレルギー(アナフィラキシー)、ツベルクリン
5	化学療法	<ol style="list-style-type: none"> 1)化学療法と化学療法薬 2)主な化学療法薬の種類と特徴 3)抗真菌薬 4)抗ウイルス薬 	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞壁合成阻害薬 ・マクロライド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬
6	口腔微生物学	<ol style="list-style-type: none"> 1)口腔細菌叢 2)バイオフィルムとしてのプラーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・抗ヘルペス薬、抗インフルエンザウイルス薬 ・口腔内細菌叢の成り立ちと遷移 ・プラークの形成(粘着性多糖体の合成)
7	口腔感染症	<ol style="list-style-type: none"> 1)齲蝕 2)歯内感染症 3)歯周病 4)その他の感染症 	<ul style="list-style-type: none"> ・齲蝕病原性細菌 ・慢性歯周炎、侵襲性歯周炎 ・ウイルス性唾液腺感染症、誤嚥性肺炎
8	院内感染対策と滅菌・消毒	<ol style="list-style-type: none"> 1)口腔外感染症と院内感染対策 2)滅菌、消毒 	事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		<ol style="list-style-type: none"> 1) 期末試験の評価(中間試験を含む) : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔衛生学 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	荻野 芳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯、口腔の健康にかかわる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防に関する基本的知識を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】荻野 芳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 歯、口腔の健康を保持・増進する手段について概説できる。 唾液腺の種類を何も見ずに列挙できる。 歯磨剤、洗口剤の種類と組成を学び、確認テストで80%以上正解する。 齲蝕発生のメカニズムについて理解し、確認テストで80%以上正解する。 フッ化物応用による齲蝕予防法を列挙できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	概論	1) 口腔衛生学の意義	<ul style="list-style-type: none"> 口腔衛生学を理解する 口腔と全身の健康との関係を理解する 第一次、二次、三次予防を説明できる
2	口腔と健康	1) 歯科疾患の予防	
3		2) 口腔機能 歯・歯周組織・口腔粘膜・舌・顎関節・唾液腺 咀嚼・嚥下・発音・味覚	
4	歯口の発育と歯科疾患等に伴う変化	1) 歯の形成 2) 歯の萌出	<ul style="list-style-type: none"> 口腔機能を説明できる 口腔機能の保持増進を学ぶ 歯の形成、萌出、交換を説明できる ★1、2、3、4回の確認テスト
5	口腔環境	3) 歯の交換	
6	歯・口腔の不潔	1) 口腔の健康と全身の健康 唾液の作用・ペリクルの形成・エナメル質の成熟	<ul style="list-style-type: none"> 唾液の作用を説明できる エナメル質の成熟を説明できる 歯の付着物、沈着物を理解する 歯石の特徴を説明できる 歯磨剤の組成を説明できる ★5、6、7回の確認テスト
7	口腔清掃 歯磨剤・洗口剤	1) プラーク 2) 歯石 3) 着色性沈着物 4) 舌苔	
8	齲蝕の予防	1) プラークコントロール 2) 歯ブラシの種類 3) 歯磨剤の組成 4) ブラッシング方法	<ul style="list-style-type: none"> 齲蝕の発生要因を説明できる 齲蝕の発生機序を説明できる 脱灰、再石灰化を説明できる 齲蝕活動性を説明できる プラークコントロールを説明できる 生活習慣の改善を理解する フッ化物の毒性を説明できる 齲蝕予防メカニズムを説明できる フッ化物歯面塗布を説明できる ★8、9、10、11、12回の確認テスト
9		1) 齲蝕の発生要因 2) 齲蝕の発生機序	
10		3) 初期齲蝕の再石灰化 4) 齲蝕活動性	
11	歯とフッ化物	5) 第一次予防 6) 第二次予防 7) 第三次予防	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の改善を理解する フッ化物の毒性を説明できる 齲蝕予防メカニズムを説明できる フッ化物歯面塗布を説明できる ★8、9、10、11、12回の確認テスト
12		1) フッ化物の分布 2) フッ化物の毒性 3) 齲蝕予防機序 4) 齲蝕予防への応用	
13	歯周疾患の予防	1) 有病状況 2) 症状と分類 3) 発生機序 4) 歯周疾患と全身疾患	<ul style="list-style-type: none"> 歯周疾患の症状と分類を説明できる 歯周疾患発生要因を説明できる 全身疾患との関係を説明できる ★13、14、15回の確認テスト
14		5) 第一次予防 6) 第二次予防 7) 第三次予防	
15	口臭予防 不正咬合	1) 口臭の分類と原因 2) 予防と処置 1) 不正咬合の分類 2) 原因と予防	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 70% 2) 確認テスト : 20% 3) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科衛生学概論	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	本田 里恵・横井 敦子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生を実践して人々の健康支援を支援するものとなるために、医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識技術を習得する態度及び論理的思考法の基礎を習得する。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科衛生学の基礎を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生学を概説できる。 2. 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。 3. 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。 4. 歯科衛生過程の全体像がイメージでき、概要を説明できる。 5. 歯科衛生過程の構成要素と書面化について知り、相互に説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生士とは	1) 歯科衛生学	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学の定義 ・健康の考え方 ・ライフステージの関わる歯科衛生活動 ・チーム医療 ・歯科衛生士憲章 ・歯科衛生士制度の誕生 ・一次予防、二次予防、三次予防 ・健康と生活を分析するモデル ・保健行動 ・ヒューマンニーズ理論 ・歯科衛生士の倫理、心構え ・国際歯科衛生士連盟 ・日本歯科衛生士憲章 ・歯科衛生アセスメント ・情報収集、情報処理 ・歯科衛生診断 ・歯科衛生計画立案 ・歯科衛生士法 ・歯科衛生士の法的性格 ・歯科衛生士の動向 ・保健、医療、福祉にかかわる歯科衛生士 ・歯科専門知識の修得 ・行動変容に関連する理論 ・行動変容を促す理論の実践 ・健康信念モデル、学習理論、社会的認知理論 ・行動変容ステージモデル、認知行動療法、動機づけ面接
2		2) 歯科衛生と健康	
3	歯科衛生の歴史	3) 歯科衛生活動の対象	
4	歯科衛生活動のための理論	4) 歯科衛生活動の領域	
5		1) 歯科衛生の誕生と経緯	
6	歯科衛生士と医療倫理	2) 歯科衛生士の役割と展望	
7		1) 予防の概念	
8	歯科衛生過程	2) 歯科衛生の考え方	
9		3) 科学的思考	
10	歯科衛生士法と	4) 歯科衛生活動の領域	
11	歯科衛生業務	1) 倫理の必要性	
12	歯科衛生士の活動と組織	2) 医の倫理と患者の権利	
13	歯科予防処置の基礎知識	3) 歯科衛生と倫理	
14	歯科保健指導	4) 自己決定権の尊重・インフォームドコンセント	
15	まとめ	1) 歯科衛生過程とは	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学概論」 「歯科医療倫理学」 歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 50% 2) レポート : 40% 3) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保存学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	岡村 純子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科保存療法に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。 2. 窩洞の名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。 3. 修復処置に使用する器材の目的を説明できる。 4. 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を説明できる。 5. 歯髄の保存療法を説明できる。 6. 外科的歯内療法の種類と適応症を説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	総論	1)歯の保存療法の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・齶蝕、歯の外傷、歯の損傷、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周疾患 ・窩洞の分類 ・切削器具 ・防湿法、歯間分離法、歯肉排除法、隔壁法、除痛法 ・銀アマルガム ・化学重合型・光重合型コンポジットレジン ・ガラスアイオノマーセメント ・ラミネートベニア修復 ・インレー修復 ・生活歯漂白 ・齶窩の開拡、薬剤の種類と所要性質、歯髄鎮静療法、覆髄法、暫間的間接覆髄法 ・除痛法、歯髄切断法、抜髄法 ・感染根管治療 ・根管充填法 ・膿胞切開、根管搔爬、根尖切除、歯根切断法、歯根分離法、ヘミセクション、歯内骨内インプラント、再植、移植
2	保存修復学	2)口腔診査	
3		1)保存修復学の意味と概要	
4		2)アマルガム修復	
5		3)コンポジットレジン修復	
6		4)ガラスアイオノマーセメント修復	
7		5)ラミネートベニア修復	
8		6)鋳造修復	
9		7)その他の修復法	
10	歯内療法学	1)歯内療法学の概要	
11		2)歯科衛生士と歯内療法	
12		3)歯髄の保存療法	
13		4)歯髄の除去療法	
14		5)根管治療・根管充填	
15		6)外科的歯内療法	
		7)歯内療法における偶発症	
	8)歯内療法に使われる薬剤・器材		
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	岡村 純子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯周療法に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病の種類と病態を説明できる。 2. 歯周治療の流れを説明できる。 3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。 4. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 5. 歯周治療後の再評価ができる。 6. 歯周治療後のメンテナンス、SPTについてを説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯周治療の基礎知識	1) 歯周疾患の現状と治療	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患の罹患状況 ・歯周治療の目的
2		2) 正常な歯周組織の構造と機能	
3	歯周疾患	<ol style="list-style-type: none"> 1) 歯周疾患の症候と症状 2) 歯肉炎と歯周炎 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯肉の発赤・腫脹・出血・排膿・動揺 ・歯肉炎と歯周炎の違い
4	歯周疾患の原因	<ol style="list-style-type: none"> 1) 局所因子 2) 全身性因子、機能性修飾因子 	
5	歯周疾患の分類 歯周医学	1) 歯肉炎	<ul style="list-style-type: none"> ・正常な歯肉と歯周ポケットの細菌 ・プラークの組成と歯周疾患 ・外傷性咬合 ・歯周疾患の分類とその特徴
6		2) 歯周疾患と全身疾患の関連性	
7	歯周治療の進め方	1) 歯周疾患の予防と治療の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周治療の内容と進め方 ・歯周組織の破壊の程度と診査方法
8		2) 歯周疾患の治療方針	
9	歯周疾患の診査	1) 一般診査と歯周組織検査歯周組織の検査	<ul style="list-style-type: none"> ・原因となる因子と咬合の診査 ・歯周疾患におけるエックス線写真読影
10		2) エックス線写真による診査	
11	歯周基本治療 歯周外科治療	1) 歯周基本治療とは	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周基本治療の効果と実際 ・目的と分類
12		2) 歯周外科治療の目的	
13	歯周治療としての リハビリテーション メンテナンス	3) 歯周治療におけるリハビリテーションの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合調整、矯正治療の意義 ・固定法、欠損補綴の意義と方法 ・インプラント治療のメンテナンス ・メンテナンスの意義、目的、方法 ・歯周組織検査・診断時の補助
14		1) メンテナンス・SPTの重要性と意義	
15		<ol style="list-style-type: none"> 2) メンテナンス・SPTの内容 3) メンテナンス・SPTの流れ 	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯周病学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児歯科学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	池田 耕士(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。 【実務経験有】池田 耕士: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに小児歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。 2. 各年齢における小児の正常な成長発達に関する事項を説明できる。 3. 歯列および咬合の発育と発育障害を説明できる。 4. 乳歯と幼若永久歯の形態的特徴ならびにう蝕の特徴を説明できる。 5. 小児のう蝕予防と進行抑制法を説明できる。 6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児歯科学概論	1) 小児歯科学とは	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の発育段階・骨年齢・歯齡 ・器官の発育形式 ・カウプ歯数、ローレル歯数 ・スキヤモンの発育曲線 ・情動・感覚・言語・運動機能の発達 ・摂食嚥下機能の発達 ・歯の形成・萌出時期 ・歯の形成異常・萌出異常 ・リーウエイスペース・歯列、咬合の発育異常 ・不正咬合(機能的、骨格的、口腔習癖) ・齲蝕発生の原因 ・乳歯・幼若永久歯の特徴 ・感染性疾患・硬組織疾患・軟組織疾患 ・小児の歯周疾患・歯の異常・先天異常
2	心身の発育	1) 発育の概念と分類	
3	顔面頭蓋の発育	2) 器官の発育・精神的発達・小児の生理的特徴	
4	歯の発育とその異常	1) 顎顔面頭蓋の発育	
5	歯の発育とその異常	2) 発育の評価法	
6	歯列・咬合の発育と異常	1) 歯の形成	
6	小児の歯科疾患	2) 歯の萌出と萌出不全	
7	小児歯科診療	1) 歯列・咬合の発育	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児、乳児、幼児の診査 ・予防処置 ・小児への薬物応用・応急処置 ・小児う蝕、歯周疾患の処置 ・外科的処置 ・咬合誘導 ・小児の口腔管理 ・小児歯科患者の行動と特徴 ・診療行為と情動変化 ・精神遅滞(知的障害)・脳性麻痺 ・発達障害(自閉症など)・ダウン症候群
		2) 歯列・咬合の異常	
		1) 小児にみられる齲蝕	
		2) 乳歯、幼若永久歯の齲蝕	
		3) 小児にみられる歯周疾患	
		4) 全身疾患に伴う歯周炎	
		5) 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 口腔粘膜・歯肉・口唇・小帯の異常・唇顎口蓋裂	
		1) 小児期の特徴と歯科的問題点	
		2) 小児歯科における診療体系	
		3) 小児歯科診療における原則	
4) 母親教室			
5) 小児歯科における麻酔法			
6) 小児の歯冠修復、歯内療法			
7) 小児の外科的処置			
8) 外傷の処置			
9) 咬合誘導、フッ化ジアンミン塗布			
10) リコール(定期健診)			
8	小児歯科における患者との対処法	1) 患児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係	<p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</p>
障害者の歯科治療	2) 歯科診療時の対応法		
		1) 障害児における歯科の処置	
		2) 発達障害	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 90%
		2) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科予防処置論基礎	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	小野 愛梨(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために概要について学ぶ。</p> <p>【実務経験有】小野 愛梨: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科予防処置の法的位置づけについて何も見ずに説明できる。 2. 正常な歯・歯周組織と口腔についての模式図に名称が書ける。 3. 歯石、プラークの形成過程と成分について説明できる。 4. 歯周病の原因と分類、進行過程が説明できる。 5. マネキン上で口腔内検査ができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	I 編1章歯科予防処置の概要	1) 歯科予防処置の概要	・歯科予防処置とは ・予防的歯石除去法とう蝕予防処置 ・歯周組織の正常像 ・正常な歯肉の遊離縁下 ・健康な口腔の模式図 ・歯冠と歯根 ★確認テスト(筆記) ・付着物と沈着物 ・歯肉縁上プラークと歯肉縁下プラーク ・プラークの成分と分類 ・歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石 ・歯石の成分と分類 ・歯肉炎と歯周炎 ・歯周細菌の種類と検体 ・顕微鏡でプラーク観察
2	II 編1章口腔の基礎知識	1) 口腔の構造	
3		2) 歯周組織とは 3) 健康な口腔とは 4) 口腔の機能	
4	2章う蝕と歯周病の基礎知識	1) 口腔内の付着物と沈着物 2) プラークとは 3) バイオフィルムとは 4) 歯石とは	
5		5) 歯周病とは	
6	プラークの観察	6) 歯周病の原因と分類と進行 1) プラークの観察	
7			
8	歯の構造	2) 口腔内の構造と歯の構造	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		確認テスト(筆記)に合格した者が最終試験を受けることができる 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30時間)	必 須	小野 愛梨・太田 克子 (実務経験あり)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】小野 愛梨・太田 克子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集の目的や得られる情報を説明できる。 2. 医療面接の目的を説明できる。 3. 歯・歯肉・口腔の検査項目が説明できる。 4. 歯周病とう蝕の指標について説明できる。 5. 歯面研磨と歯周組織検査における基礎知識と使用器材が説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	Ⅲ編2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理	1)患者からの情報収集 2)全身の健康状態の把握 3)口腔の器質的問題の把握 4)口腔内観察と検査項目	・歯科衛生アセスメント ・主観的情報と客観的情報 ・閉ざされた質問と開かれた質問 ・器質的と機能的
2	歯周組織の基礎知識	1)正常な歯肉と病的な歯肉	・クリニカルアタッチメントレベル
3	歯周組織検査	2)歯周ポケット 1)エクスプローラーの把持と基本操作	・根分岐部病変 ・根分岐部の測定
4	アセスメントとは	1)分析のためのデータ 口腔内写真 エックス線写真 歯周病検査	・PCR・OHI・OHI-S・PDI・PHP・PMA・PI・GI・GB・CPI・根分岐部検査・DMF
5	指数の種類	2)口腔衛生状態の指数 3)歯周疾患の指数	★確認テスト(筆記) ・客観的評価
6	歯科衛生介入としての歯科予防処置	マネキン上口腔内の取り扱い ※自身の口腔内で演習 ・マネキン演習	・PCR・OHI・OHI-S ・歯垢染色剤
7		1)ミラーテクニック	
8	プロービングの基礎知識・基礎演習	1)プローブの構造	・ウォーキングプロービング
9		2)動揺度	・プロービングの使用目的と種類
10		3)プロービング基本操作	・プロービングで得られる情報 ・機上演習
11			・プローブの把持と正しい操作方法 ・プロービング圧のコントロール
12	歯面研磨基礎知識と基礎演習	1)歯面研磨の目的 2)臨床における注意事項	・安全、正確な計測 ・PMTCと歯面研磨の違い ・歯科器械の取り扱い
13			
14	相互実習のための基本手技	・マネキン演習 ※ユニットマネキン使用	
15			
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「歯周病学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		確認テストに合格した者が最終試験を受けることができる 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法実習 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30時間)	必 須	小野 愛梨・太田 克子 (実務経験あり)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】小野 愛梨・太田 克子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生過程の情報収集とその目的および内容が言える。 2. 歯周組織検査用器具が列挙できる。 3. 正しい姿勢とポジションで器具の操作ができる。 4. 歯石除去に使用する器具をファントム(マネキン)で正しく操作できる。 5. 歯面研磨に使用する器具をファントム(マネキン)で正しく操作できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	シックルスケーラーの基礎知識・基礎演習	1) 手用スケーラー	・シックルスケーラーの形態
2	シックルスケーラーの基本操作(前歯部)	1) シックルスケーラーの把持と操作(上顎前歯部)	・シックルスケーラーの正しい把持と操作
3		2) シックルスケーラーの操作(下顎前歯部)	・4原則 ★確認テスト(実技)
4	シックルスケーラーの基本操作(臼歯部)	3) シックルスケーラーの操作(右側臼歯部)	・マネキン実習
5		4) シックルスケーラーの操作(左側臼歯部)	・マネキン実習 ★確認テスト(実技)
6	シャープニング操作	1) シックルスケーラーのシャープニング	・シックルスケーラーの形態
7	偶発事故防止	1) 歯科予防処置における偶発事故	・シャープニングの方法と刃部の確認
8	PMTCの基本操作	2) 偶発事故の予防と対策	・患者におこりやすい事故
9		1) PMTCデモ操作の確認	・術者に起こりやすい事故 ・固定と安全な操作 ・安全な操作 ・ポジションと姿勢 ★確認テスト(実技)
10	プロービングのマネキン実習	1) プロービングデモ操作の確認	・プロービング圧のコントロール
11		・マネキン実習	・安全、正確な計測 ・ポジションと姿勢 ★確認テスト(実技)
12	プロービングの相互実習	1) 口腔内でのプロービング	・挿入角度
13		・相互実習	・口腔内での安全な器械の取り扱い ・ポジションと姿勢
14	歯面研磨のマネキン実習	1) マネキン上での歯面研磨実習	・患者への配慮 ★確認テスト(実技)
15	歯面研磨の相互実習	1) 口腔内での歯面研磨実習 ※フッ化物塗布法の実施	・患者への声掛け
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「歯周病学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 実技試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% ・各実技試験は授業初めに評価基準を示す ・確認テスト(実技)に合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・各実技試験の詳細な評価項目は評価基準表にて示す	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
う蝕予防法	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30時間)	必須	鈴木 仁美 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における齶蝕予防の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. う蝕の原因について説明できる。 2. う蝕活動性試験を実施し、結果を評価することができる。 3. 小窩裂溝填塞法の術式を把握し、模型に実施することができる。 4. フッ化物応用法を説明できる。 5. フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。 6. フッ化物局所応用法の術式を把握し、実施することができる。 			
	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	う蝕予防処置法	1) 齶蝕予防処置法の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・意義・具備すべき条件・使用目的 ・宿主因子の評価方法 ・口腔環境因子の評価方法 ・RDテスト、ミューカウント、Dentocult-SM ・オーラルテスターミューダンス ・Dentocult-LB、カリオスタット、唾液分泌 ・グルコースクリアランステスト、緩衝能 ・急性中毒、慢性中毒 ・悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出 ・綿球・綿棒塗布法、トレー法、イオン導入法 ・歯ブラシ法 ・2%フッ化ナトリウム溶液 ・リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液
2	う蝕活動性試験	2) う蝕の原因と進行予防方法	
3		1) う蝕活動性試験とは	
4		2) う蝕活動性試験の意義・条件・目的	
5		3) う蝕発病因子の評価方法の種類と特徴	
6		4) う蝕活動性試験の実際	
7	う蝕予防計画	1) 評価結果に基づく予防と治療	
8	小窩裂溝填塞	1) 術式	
9		・ラバーダム防湿のマネキン演習	
10		2) 光重合型小窩裂溝填塞机上実習	
11		3) 化学重合型小窩裂溝填塞机上実習	
12	フッ化物応用	1) フッ化物局所応用によるう蝕予防法	
13		2) フッ化物の毒性と急性中毒への対応	
14		3) ライフステージ別のフッ化物局所応用	
15	フッ化物歯面塗布	1) フッ化物歯面塗布法の種類	
16		2) 効果的な塗布の時期	
17		3) 使用製材	
18		4) フッ化物溶液の保管と使用量の確認	
19	フッ化物相互実習	1) 術式	
20		2) 相互実習 ※トレー法・洗口法	
21		3) 塗布後の注意	
22		4) フッ化物洗口の実施方法	
23	鍍銀法・フッ化ジアンミン銀	1) 効果	
24		2) 作用機序	
25		3) フッ化ジアンミン銀塗布実習	
26		4) 手指および布への着色・脱色実習	
27	う蝕予防処置集団応用	1) 集団応用の基礎知識	
28		2) 集団応用実施例	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論基礎	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	本田 里恵(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。 2. 歯ブラシ・歯磨剤・口腔清掃法についての基礎知識と技術を学び、実習で100%磨きを達成できる。 3. 歯ブラシセット、歯ブラシチャートを使用し、ブラッシング法の適応、特徴と留意点を説明できる。 4. ブラッシング方法の種類と方法を説明できる。 5. 補助用具が自身で使用できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	口腔衛生介入としての 歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる 指導(歯ブラシ)	1)ブラッシング 2)歯ブラシの分類 3)毛先の種類と把持	<ul style="list-style-type: none"> ・パームグリップとペングリップ ・歯ブラシと電動歯ブラシ ・歯磨剤、洗口剤、保湿剤
2		1)ブラッシング法の分類	
3	口腔衛生管理に関わる 指導(その他)	2)歯ブラシの毛先を使用したブラッシング方法 3)歯ブラシの脇腹を使用したブラッシング方法	<ul style="list-style-type: none"> ・水平法、垂直法、スクラッピング法 ・1歯ずつの縦磨き法、バス法 ・フォーンズ法、ローリング法、スティルマン法 ・チャーターズ法 <li style="text-align: right;">★ブラッシング方法実技試験
4		1)その他の清掃方法	
5			
6		1)歯磨剤・洗口剤・保湿剤の種類と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・デンタルフロス ・歯間ブラシ ・タフトブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ ・義歯ブラシ ・口腔ケア用具
7		<ul style="list-style-type: none"> ・種類 ・基本的な使用法 	
8	歯ブラシセット作成方法 ブラッシング方法のチャート作成		★100%磨き実施(セルフ)
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 ・歯科保健指導ハンドブック 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		実技試験に合格しなければ最終筆記試験を受けられない 1) 科目終了時の最終試験(筆記)の評価 : 40% 2) ブラッシング実技試験 : 30% 3) 提出物 : 20% 4) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
歯科保健指導論 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
30回	2単位(60時間)	必須	本田 里恵・横井 敦子 太田 克子・松田 珠生(実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科保健指導論基礎の基礎知識を生かし、ライフステージにおける乳幼児から高齢者まで、全身および口腔の健康の維持増進のために口腔ケアの果たす役割を理解し、実習を通して実践力を身につける。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・横井 敦子・太田 克子・松田 珠生: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健指導に関わる理論と行動変容が説明できる。 2. 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 3. 各ライフステージ別の口腔衛生指導、食生活指導が説明できる。 4. 自分自身の口腔衛生管理ができる。 5. 保育所、幼稚園、小学校を対象とした健康教育が立案できる。 				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	保健行動支援に関わる基礎知識	1) 歯科保健指導に関わる理論	<ul style="list-style-type: none"> ・健康信念モデル ・行動変容のステージモデル 	
2		2) 保健行動と行動変容 3) 歯科衛生過程の概要		
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入	1) 妊産婦期 妊産婦期の一般的、口腔の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙が妊娠に及ぼす影響 ・母子健康手帳 	
4		2) 乳児期 乳児期の発育、口唇と舌機能の発達過程		
5		離乳食の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の影響、低体重児出産 ・乳児期の一般的、口腔の特徴 	
6		口腔清掃		
7		3) 幼児期 幼児期の一般的、口腔の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・卒乳、食物アレルギー、哺乳反射 ・イオン飲料とう蝕 ・幼児期の発育 	
8		乳歯の萌出時期の理解		
9		4) 学齢期 学齢期の一般的、口腔の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期の一般的、口腔の特徴 ・学齢期の歯科衛生介入 	
10		プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの目標		
11		5) 青年期 青年期の一般的、口腔の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル症候群 ・プラークフリー ・歯周病との関連疾患 	
12		望ましい保健行動 100%セルフブラッシング 100%ブラッシング(歯科衛生過程)		
13		PTC	1) 相互実習	<ul style="list-style-type: none"> ・歯ブラシの選択 ・歯ブラシの操作方法 ・補助用具の選択 ・補助用具の操作方法
14				
15				
			次のページに続く	
			事前学習	
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「人体の構造と機能3栄養学」 ・歯科保健指導ハンドブック 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16		6)成人期 成人期の一般的、口腔の特徴	・歯周病との関連疾患
17		7)老年期 老年期の一般的、口腔の特徴	・ブレスローの7つの健康習慣 ・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム
18	栄養学 5章食事と食品	1)食事の基本	・食品の表示
19		2)食事のバランスガイド	・保健機能食品
20		3)食品群の分類と特徴	・特別用途食品
20		4)食品に含まれる栄養素	・摂食嚥下機能に合わせた調理の工夫 ★食事記録提出
21	6章ライフステージと 栄養	1)妊娠期における栄養	・各ライフステージの栄養アセスメント と栄養ケア
22		2)授乳期における栄養	・離乳
23		3)乳児期における栄養	・栄養と食生活
24		4)幼児期における栄養	・栄養と学校給食
25		5)学童期における栄養	・やせと肥満
26		6)思春期における栄養	・糖尿病と高血圧
27		7)成人期における栄養	・高齢期の特徴と栄養摂取の要点
28		8)高齢期における栄養	・主な疾患と栄養ケア
25	7章栄養ケア・マネジ メント	1)チームアプローチと栄養ケアマネジメント	・多職種による栄養ケア
26		2)栄養スクリーニング	
27		3)栄養アセスメント	
28		4)栄養ケア計画、実施とモニタリング、評価	・プロセス評価とアウトカム評価
27	歯科衛生教育活動	1)健康教育とは	・指導案
28		2)健康教育の進め方	・教育媒体
29		3)学校保健(小学校)における歯科保健指導	・シナリオ完成
30		4)シナリオ作成	・媒体決定
30		5)伝達技術(プレゼンテーション)	・PDCAサイクル
30		6)前準備・打ち合わせ	
30		7)指導計画表作成	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態																																												
栄養指導	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義・演習・実習																																												
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																												
8回	1単位 (15時間)	必須	松田 珠生 (実務経験有)																																												
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体の活動に必要な栄養素の摂取と働きから、健康の維持と増進を考える態度を養うために、栄養と代謝に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】松田 珠生:栄養士の資格をもち、介護支援専門員および歯科衛生士としての業務経験をもとに、学生へ栄養指導における基礎知識を教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持と増進のために必要とされる、栄養の概略が説明できる。 2. 食事摂取基準とは何かを説明できる。 3. 食品から摂取している糖質、たんぱく質および脂質について、それぞれの生態での役割を概説できる。 4. 成長期、成人期及び高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を把握できる。 5. 健康づくりのための食事計画を立案できる。 <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 30%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>1章栄養学と歯科衛生士</td> <td>1)栄養の概念 2)栄養と食生活の意義 ※歯科保健指導の授業で再度説明</td> <td>・歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義 ・栄養素の働き</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>2章栄養素の種類と働き</td> <td>1)糖質 2)脂質 3)タンパク質</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> <td>4)ビタミン 5)ミネラル 6)食物繊維 7)水</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>3章栄養素の消化吸収</td> <td>1)消化と吸収 2)消化の過程</td> <td>・口腔 ・唾液の作用 ・胃液の作用 ・膵液の作用 ・胆汁の作用</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td></td> <td>3)吸収のメカニズム 4)栄養素別の消化・吸収</td> <td>・小腸と大腸の働き ・糖質・タンパク質・脂質・ビタミン・ミネラル</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>4章健康と栄養</td> <td>1)食生活を取り巻く施策 2)食事摂取基準 3)食品の安全</td> <td>・食事摂取基準 ・食生活指針 ・食事摂取基準 ・食生活指針 ・健康増進法と健康日本21</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>5章食事と食品</td> <td>※歯科保健指導の授業で詳しく説明</td> <td>・栄養摂取量、食品群別摂取量 ・食事バランスガイド</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: center;">事前学習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	1章栄養学と歯科衛生士	1)栄養の概念 2)栄養と食生活の意義 ※歯科保健指導の授業で再度説明	・歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義 ・栄養素の働き	2	2章栄養素の種類と働き	1)糖質 2)脂質 3)タンパク質		3		4)ビタミン 5)ミネラル 6)食物繊維 7)水		4	3章栄養素の消化吸収	1)消化と吸収 2)消化の過程	・口腔 ・唾液の作用 ・胃液の作用 ・膵液の作用 ・胆汁の作用	5		3)吸収のメカニズム 4)栄養素別の消化・吸収	・小腸と大腸の働き ・糖質・タンパク質・脂質・ビタミン・ミネラル	6	4章健康と栄養	1)食生活を取り巻く施策 2)食事摂取基準 3)食品の安全	・食事摂取基準 ・食生活指針 ・食事摂取基準 ・食生活指針 ・健康増進法と健康日本21	7				8	5章食事と食品	※歯科保健指導の授業で詳しく説明	・栄養摂取量、食品群別摂取量 ・食事バランスガイド				事前学習				次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
回	単 元	内 容	学習のポイント																																												
1	1章栄養学と歯科衛生士	1)栄養の概念 2)栄養と食生活の意義 ※歯科保健指導の授業で再度説明	・歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義 ・栄養素の働き																																												
2	2章栄養素の種類と働き	1)糖質 2)脂質 3)タンパク質																																													
3		4)ビタミン 5)ミネラル 6)食物繊維 7)水																																													
4	3章栄養素の消化吸収	1)消化と吸収 2)消化の過程	・口腔 ・唾液の作用 ・胃液の作用 ・膵液の作用 ・胆汁の作用																																												
5		3)吸収のメカニズム 4)栄養素別の消化・吸収	・小腸と大腸の働き ・糖質・タンパク質・脂質・ビタミン・ミネラル																																												
6	4章健康と栄養	1)食生活を取り巻く施策 2)食事摂取基準 3)食品の安全	・食事摂取基準 ・食生活指針 ・食事摂取基準 ・食生活指針 ・健康増進法と健康日本21																																												
7																																															
8	5章食事と食品	※歯科保健指導の授業で詳しく説明	・栄養摂取量、食品群別摂取量 ・食事バランスガイド																																												
			事前学習																																												
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する																																												
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																													
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能3 栄養学」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 																																													

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	鈴木 仁美・久保 直美 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する、基礎的知識、技術および態度を習得する。専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術、態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】鈴木 仁美・久保 直美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけが説明できる。 2. 共同動作の基本を理解し、フォーハンドシステムの基本的動作ができる。 3. 医療安全管理におけるスタンダードプレコーション、医療廃棄物について説明できる。 4. 消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作、取り扱いができる。 5. 歯科用ユニットの構造と機能について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科診療補助の概念	1) 診療の補助とは	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士法 ・保健師助産師看護師法 ・インシデント、アクシデント ・フローチャート ・消毒剤の用途と使用濃度 ・消毒水準分類 ・感染リスク ・産業廃棄物、一般廃棄物 ・スタンダードプレコーション ・手指消毒 ・ラテックスアレルギー ★確認テスト(実技) ・歯科用ユニットの取り扱い ★確認テスト(実技)
2	医療安全と感染予防	2) 診療の補助の範囲の法的な変化	
3		1) 医療安全	
4	滅菌と消毒	2) 歯科診療での補助業務	
5		3) 医療法と医療安全対策	
6	歯科医療における感染予防対策	4) 感染予防	
7	手指衛生	1) 滅菌・消毒・洗浄の定義	
8		2) 滅菌法・消毒法	
9	グローブ装着・着脱の手順	3) 歯科用器材の滅菌・消毒と管理	
10		4) 医療廃棄物の取り扱い	
11	歯科診療における基礎知識	1) 環境感染予防対策	
12		2) 感染事故時の対応	
13		1) 手指衛生の分類	
14		2) 感染を予防するための基本的手法	
15		1) グローブ、マスクの付け方、外し方	
		2) プラスチックエプロンの付け方、外し方	
		1) 歯科診療室の構造と設備	
		2) 歯科用チェアユニット	
		3) 薬品・歯科材料の管理	
			次のページに続く
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「歯科機器」・「歯科材料」 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験(実技含む)の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	共同動作	1)共同動作の概念	
17		2)術者・補助者・患者のポジショニング	
18		3)診療時のライティング	
19		4)フォーハンデッドデンティストリー	
20		5)器具の受け渡し	
21		6)器具の受け渡し	
22		7)バキュームテクニック	
23		8)スリーウェイシリンジテクニック	
23		9)ミラーテクニック	
24	口腔内観察	1) 口腔内の取り扱い	
25		2) 歯の種類と数・歯の表示法	
25		3) 歯および口腔検査用機器の取り扱い ※ユニットマネキン実習	
26	歯科診療所における 受診の流れ	1)歯科診療所における患者対応	
27		2)患者誘導	★確認テスト(実技)
28			
29	綿球・ロールワッテ作成	1) ロールワッテ・綿球作製実習	★確認テスト(実技)
30	まとめ		
	[関連テキスト] 28、29回 口腔解剖 歯科機器		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科材料学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15/30回	2単位 (60時間)	必須	岡村 純子・久保 直美 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。</p> <p>【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科材料学の知識を学生へ教授する。 久保 直美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科材料学の知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 印象材の種類、用途を説明できる。 2. 模型用材料の種類、用途を説明できる。 3. 合着材、接着材、仮封材の種類、用途を説明できる。 4. 成形歯冠修復材の種類、用途を説明できる。 5. ワックス、セラミックス、金属の種類、用途を説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	1) 歯科材料の所要性質 2) 歯科材料の取り扱い	・物質の構造 ・医薬品医療機器等法・添付文書
2	印象材	1) 印象材の種類と用途 2) 印象材の組成と特徴	・アルジネート印象材 ・寒天印象材・モデリングコンパウンド
3		3) 印象材の一般的性質	・シリコンゴム印象材、ポリエーテルゴム印象材 ・酸化亜鉛ユーージノールセメント、印象用石膏
4	模型用材料	1) 石膏の種類と用途 2) 石膏の一般的性質	・ISO、JISの分類 ・研究用模型、作業用模型
5	合着材・接着材	1) 合着材の種類と用途 2) 接着性レジンセメントの種類と用途	・ガラスアイオノマーセメント ・接着性レジンセメント
6		3) 合着材・接着材の一般的性質	・カルボキシレートセメント ・リン酸亜鉛セメント
7	成形修復材	1) 成形修復材の種類と用途	
8		2) 成形修復材の組成と特徴	
9	仮封材	1) 仮封材の種類と用途	・セメント系、レジン系、水硬性仮封材
10	暫間修復材と仮着用セメント	2) 暫間修復材の種類と用途	・テンポラリーストップピング、サンダラックバーニッシュ
11			
12			
13	ワックス	1) ワックスの種類と用途 2) 金属・セラミックスの種類と用途	・金属、合金 ・歯科用陶材 ・歯科用セラミックス
14	セラミックス、金属		
15			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「歯科機器」・「歯科材料」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
歯科材料学	歯科衛生学科/1年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
15/30回	2単位 (60時間)	必須	鈴木 仁美・久保 直美 (実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。 【実務経験有】鈴木 仁美・久保 直美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科材料学の知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 印象材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。 2. 模型用材料の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。 3. 合着材、接着材、仮封材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。 4. 成形歯冠修復材仮封材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。 5. 相互実習において、患者に配慮し、印象採得し、スタディモデルを作製することができる。</p>				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	印象材	1)基礎知識	・寒天印象材・モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノールセメント、印象用石膏 ・アルジネート印象材 ★実技確認	
2		2)アルジネート印象材の取り扱い		
3	模型用材料	1)歯科用石膏の練和	管理方法 ★実技確認	
4		2)歯科用石膏の取り扱い(実習・石膏棒作成)		
5	合着材および接着材	1)基礎知識	・ガラスアイオノマーセメント ・カルボキシレートセメント ・リン酸亜鉛セメント ・接着性レジンセメント ★実技確認	
6		2)ガラスアイオノマーセメントの取り扱い		
7		3)カルボキシレートセメントの取り扱い		
8		4)リン酸亜鉛セメント		
8		5)接着性レジンセメントの取り扱い		
9	成形歯冠修復材	1)基礎知識	・テンポラリーストップング ・水硬性仮封材 ・仮封用軟質レジン ・サンダラックバーニッシュ ・薬剤添加綿糸、歯肉圧排用薬剤 ★実技確認 ★実技確認	
10	仮封材	2)成形歯冠修復材の種類		
11		1)基礎知識		
11		2)テンポラリーストップング、セメント系仮封材の取り扱い		
12	薬品・歯科材料の管理 歯肉圧排、歯周パック スタディーモデル製作	3)水硬性仮封材、仮封硬質レジンの取り扱い		
13		1)基礎知識		
13		2)種類と用途		
14	スタディーモデル製作			
15	スタディーモデル製作			
				事前学習
				次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「歯科機器」・「歯科材料」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社		1) 実技評価 : 90% 2) 出席率 : 10%		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨地実習 I	歯科衛生学科/1年次	2026年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	1単位(45時間)	必須	小野 愛梨・鈴木 仁美 太田 克子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】小野 愛梨・鈴木 仁美・太田 克子・横井 敦子:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージ別の口腔健康管理ができるよう教授する。</p>			
[内 容 と 計 画]			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 乳幼児期	保育所 (0歳～3歳)	1. 乳幼児期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健活動を理解する 2. 乳幼児期の身体や口腔機能の発達段階を理解する 3. 乳幼児期に応じたコミュニケーションがとれる	
2 学齢期	小学校	1. 小学生を対象とした健康教育をするために学齢期の特性を理解する 2. 小学校における学齢期の健康教育の概要を知る 3. 学齢期に応じたコミュニケーションがとれる	
3 老年期	高齢者施設	1. 高齢者施設における要介護高齢者に関わる他職種を知る 2. 高齢者施設における要介護高齢者の生活を知る 3. 高齢者施設における口腔健康管理を知る 4. カンファレンスに積極的に参加できる	
4 乳幼児期～老年期	一般歯科診療所	1. 歯科衛生士の業務内容を知る 2. 対象者の守秘義務を遵守できる 3. 歯科における医療安全管理を知る 4. 器材、機器および薬品の管理の方法を知る (詳細は「実習要綱」を参照)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論 第2版」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 実習への参加状況および態度、日々の実習日誌、レポート等から総合的に評価する (詳細については評価表参照)	

2026年度

授業進度計画

(シラバス)

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校 歯科衛生学科2年

歯科衛生学科/3年制

(2025年度入学生)

分野	授業科目		授業形態	単位数	時間数	期	1年		2年		3年		
	教育内容	科目名					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基礎	生物学	講義	1	15	前期	15						
		教育方法論	講義	1	15	後期		15					
		心理学	講義	1	15	後期		15					
		人間関係論	演習	2	60	通年	30	30					
		社会人基礎講座Ⅰ	講義	1	15	後期		15					
		社会人基礎講座Ⅱ	講義	1	15	前期					15		
		情報処理Ⅰ	演習	1	30	後期		30					
		情報処理Ⅱ	演習	1	30	前期						30	
		歯科英語	講義	1	15	後期				15			
分野小計				10	210		45	105	0	15	45	0	
基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学・組織発生学	講義	2	30	前期	30						
		栄養と代謝	演習	1	30	後期		30					
		生理学	講義	1	15	前期	15						
		小計	4	75		45	30	0	0	0	0		
基礎分野	歯・口腔の構造と機能	口腔組織発生学	講義	1	15	前期	15						
		口腔解剖学	講義	2	30	前期	30						
		歯牙解剖学	講義	1	15	後期		15					
		口腔生理学	講義	1	15	前期	15						
小計				5	75		60	15	0	0	0	0	
専門基礎分野	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	講義	1	15	前期	15						
		口腔病理学	講義	2	30	前期	30						
		薬理学	講義	2	30	後期		30					
		微生物学・口腔微生物学	講義	1	15	後期		15					
小計				6	90		45	45	0	0	0	0	
専門基礎分野	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・社会福祉論	講義	2	30	前期					30		
		口腔衛生学Ⅰ	講義	2	30	前期	30						
		口腔衛生学Ⅱ（統計学含む）	演習	1	30	通年						30	
		衛生学・公衆衛生学	講義	2	30	前期						30	
小計				7	120		30	0	0	0	90	0	
分野小計				22	360		180	90	0	0	90	0	
専門基礎分野	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	講義	2	30	通年	30						
		小計				2	30		30	0	0	0	0
		歯科保存学	演習	1	30	後期		30					
		歯周病学	演習	1	30	後期		30					
		歯科補綴学	演習	1	30	前期			30				
		口腔外科学・麻酔学	演習	1	30	前期			30				
		小児歯科学	講義	1	15	後期		15					
		歯科矯正学	演習	1	30	前期			30				
		高齢者歯科学	演習	1	30	前期			30				
		障害者歯科学	演習	1	30	前期			30				
小計				8	225		0	75	150	0	0	0	
専門基礎分野	歯科予防処置論	歯科予防処置論基礎	講義	1	15	前期	15						
		歯周病予防法Ⅰ	演習	1	30	後期		30					
		歯周病予防法実習Ⅰ	演習	1	30	後期		30					
		歯周病予防法Ⅱ	演習	1	30	通年			30				
		歯周病予防法実習Ⅱ	演習	2	60	通年			60				
		う蝕予防法	演習	1	30	後期		30					
		歯科予防処置実践実習	講義	1	15	前期					15		
		小計				8	210		15	90	90	0	15
専門基礎分野	歯科保健指導論	歯科保健指導論基礎	講義	1	15	前期	15						
		歯科保健指導論Ⅰ	演習	2	60	後期		60					
		栄養指導	講義	1	15	通年		15					
		歯科保健指導論Ⅱ	演習	1	30	前期			30				
		歯科保健指導演習	演習	1	30	後期				30			
		歯科保健指導論Ⅲ	演習	1	30	前期					30		
小計				7	180		15	75	30	30	30	0	

47	歯科診療補助論	歯科診療補助論 I	演習	2	60	前期	60						
48		歯科材料学	演習	2	60	後期		60					
49		歯科診療補助論 II	演習	2	60	前期			60				
50		歯科診療補助演習	演習	1	30	後期				30			
51		臨床検査	演習	1	30	前期			30				
52		救命救急法	講義	1	15	通年						15	
		小計		9	255		60	60	90	30	15	0	
53	専門分野 臨地実習（臨床実習含む）	臨地実習 I	実習	1	45	通年	45						
54		臨地実習 II	実習	1	45	通年			45				
55		臨地実習 III	実習	7	315	通年			315				
56		臨地実習 IV	実習	9	405	通年						405	
57		臨地実習 V	実習	2	90	通年						90	
		小計		20	900		45	0	360	0	495	0	
		分野小計		54	1,800		165	300	720	60	555	0	
58	選択分野 選択必須分野	口腔機能管理学	講義	2	30	後期				30			
59		専門職連携演習	演習	1	30	前期					30		
60		歯科衛生学の統合と実践	演習	2	60	通年					60		
61		総合歯科医学セミナー	講義	2	30	後期						30	
		小計		7	150		0	0	0	30	90	30	
		分野小計		7	150		0	0	0	30	90	30	
	授業形態別	講義		28	38	570	-	255	135		45	105	30
		演習		28	35	1,050	-	90	360	360	60	180	0
		実習		5	20	900	-	45	0	360	0	495	0
		総計		93	2,520	0	390	495	720	105	780	30	

歯科衛生学科

歯科衛生学科2年(2025年(R7)度生)18期生

カNo.	No.	科目	種別	前期 (回)	後期 (回)	通年 (回)	単位	授業担当者	ページ	
9	1	歯科英語	講義		8		1	松田 珠生	1	
28	2	歯科補綴学	演習	15			1	池田 耕士	10	2
								大江 弥生	5	
29	3	口腔外科学・麻酔学	演習	15			1	細江 美知	3	
31	4	歯科矯正学	演習	15			1	伊東 正志	11	4
								鈴木 仁美	4	
32	5	高齢者歯科学	演習	15			1	木村 年秀	5	
33	6	障害者歯科学	演習	15			1	関 愛子・土田 佳代	6	
37	7	歯周病予防法Ⅱ	演習	15		○	1	小野 愛梨 太田 克子・横井 敦子	7	
38	8	歯周病予防法実習Ⅱ	演習	15	15	○	2	小野 愛梨 太田 克子・横井 敦子	8	
44	9	歯科保健指導論Ⅱ	演習	15			1	本田 里恵・鈴木 仁美 小野 愛梨・太田 克子	10	
45	10	歯科保健指導演習	演習		15		1	本田 里恵・横井 敦子 小野 愛梨・太田 克子	11	
49	11	歯科診療補助論Ⅱ	演習	30			2	鈴木 仁美・久保 直美 太田 克子	12	
50	12	歯科診療補助演習	演習				1	中村 宥香	6	14
								小野 愛梨・横井 敦子	6	
								久保 直美	3	
51	13	臨床検査	演習	15			1	上里 隆裕・大城 與 鈴木 仁美	8	15
								久保 直美	7	
54	14	臨地実習Ⅱ	実習	45時間		○	1	太田 克子・横井 敦子 小野 愛梨・鈴木 仁美 久保 直美	16	
55	15	臨地実習Ⅲ	実習	315時間		○	7	太田 克子・横井 敦子 小野 愛梨・鈴木 仁美 久保 直美	17	
58	16	口腔機能管理学	講義		15		2	後藤 拓朗	8	18
								本田 里恵	7	
合計				165	68		25			

※上記は変更になることもあります。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
歯科英語	歯科衛生学科 / 2年次	2026年度 / 後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数 (×90分)	単位数 (時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	松田 珠生
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。</p> <p>【実務経験有】松田 珠生: 歯科衛生士の資格と英語力を活かし、業務経験をもとに歯科英語に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (行動目標)]</p> <p>1. 歯科衛生学に関連する外国語のうち代表的なものを列挙できる。</p> <p>2. 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。</p> <p>3. 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の表現・クラスルーム英語 ・歯科単語 (歯科医療に携わる者) 	
2	診療室での英会話 歯科単語	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科英語・単語 ・「Passport」・Would you like A or B ? 	
3		<ul style="list-style-type: none"> ・「Passport」・Would you like some ~ ? 	
4		<ul style="list-style-type: none"> ・歯科英語 ・単語復習 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・「Passport」・Could I have some ~ ? 	
6		<ul style="list-style-type: none"> ・国名・都市名の言い方 ・感想を言う表現 ・How was your ~ ? 	
7		<ul style="list-style-type: none"> ・歯科英語 ・新出単語 	
8		<ul style="list-style-type: none"> ・歯科英語 ・新出単語 	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてプリントを用いて予習する
[参考テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント ・萌文書林 「歯科英語の練習帳」 		<p>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</p> <p>2) 出席状況 (授業態度含む) : 10%</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
歯科補綴学	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回(DT5回)	1単位(30時間)	必須	池田 耕士・大江 弥生 (実務経験あり)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。</p> <p>【実務経験有】池田 耕士: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科補綴学に関する基礎知識を学生に教授する。大江 弥生: 歯科技工士の資格を活かし歯科補綴学に関する知識を教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。 2. 補綴装置の種類と適応を説明できる。 3. 支台装置とポンティックの選択、特徴および製作方法を概説できる。 4. 可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 5. 補綴治療の臨床ステップとおよび技工操作を概説できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科補綴治療の基礎 歯科補綴の概要	1)補綴とは	<ul style="list-style-type: none"> ・補綴歯科治療の目的 ・クラウン、ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯、インプラント ・特殊な口腔内装置 ・カンペル平面・前頭面・矢状面・水平面
2		2)歯の欠損に伴う生理的变化 3)補綴装置の種類と適応	
3	補綴治療の基礎知識	・歯列と咬合	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎安静位・中心咬合位・咬合嵌合位 ・口腔内検査、画像検査、咬合と顎口腔機能の検査
4	補綴歯科治療における検査	1)補綴治療における検査の種類と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全部被覆冠、一部被覆冠 ・ポンティック・支台装置・連結部 ・患者への説明と指導 ・CAD/CAMクラウン、ブリッジ
5	クラウン・ブリッジ治療	1)クラウン・ブリッジ治療の概要 ・治療の流れと歯科衛生の役割	
6		・クラウン、ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応	
7	有床義歯治療 ※歯科技工士担当	1)全部床義歯治療の概要 2)全部床義歯治療の流れ ・医療面接、検査、治療計画、前処置、概形印象 ・精密印象、咬合採得、試適、装着、調整	
8		<ul style="list-style-type: none"> ・患者への説明と指導 ・全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応 3)部分床義歯治療の概要と流れ ・部分床義歯の分類と構成要素 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデリングコンパウンド、個人トレー、筋圧形成 ・モデリングコンパウンド、個人トレー、筋圧形成 ・フェイスポートランスファー、ゴシックアーチ、ろう義歯 ・チェックバイト、人工歯配列 ・義歯の着脱、清掃、メンテナンス ・フラビーガム、リライン、リベース ・クラスプ、アタッチメント ・レスト、フック、スパー、連結子 ・フレームワーク
9			
10			
11			
12			
13	インプラント治療 特殊な口腔内装置を用いる治療	4)インプラント治療の概要と流れ ・インプラントの構成、前処置、術式、上部構造とメンテナンス、患者への説明と清掃、トラブルとその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・アバットメント、コーピング、デジタルソリューション
14			
15	補綴治療における器材の管理	5)特殊な口腔内装置を用いる治療 6)補綴歯科治療における器材 ・器具、器材別滅菌、消毒、洗浄、保管	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチエイド ・スポーツマウスガード
		事前学習	
		次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔外科学・麻酔学	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	細江 美知 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】細江 美知:歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔外科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔・顎顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。 2. 先天異常と発育異常の病態と治療法を概説できる。 3. 各種口腔粘膜疾患の特徴と治療法を概説できる。 4. 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の特徴と治療法を概説できる。 5. 口腔・顎顔面領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と特徴および治療法を概説できる。 6. 抜歯・口腔外科小手術の手順を説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	顎・口腔粘膜疾患と口腔外科	1)1章 口腔外科の概要 2)2章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 3)3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害 4)4章 口腔粘膜の病変 ・口腔粘膜に見られる病的所見 ・病態の理解と類似疾患との鑑別要点 ・口腔に原発する粘膜疾患とその他の疾患に伴う口腔粘膜疾患 5)5章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6)6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 7)7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 ・歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍の特徴と分類 8)8章 唾液腺疾患 ・口腔乾燥症 9)9章 口腔領域の神経疾患 ・顎口腔の知覚神経と運動神経	・口腔病変と全身疾患 ・口腔領域の先天異常・変形・口唇裂・口蓋裂 ・軟組織の損傷 ・歯および歯槽の損傷、顎骨骨折 ・ウイルス性疾患 ・口腔カンジダ症 ・顎骨、周囲組織の炎症 ・顎骨に発生する嚢胞 ・軟組織に発生する嚢胞 ・腫瘍の分類 ・エプーリス ・唾液と唾液腺 ・唾液腺疾患 ・バレーの3圧痛点 ・神経麻痺・痙攣 ★理解度確認小テスト
12 13 14 15	歯科治療と歯科麻酔	1)1章 歯科麻酔と患者管理 2)2章 局所麻酔 ・局所麻酔の種類、歯科用局所麻酔薬の特徴、局所的偶発症 3)3章 精神鎮静法 4)4章 全身麻酔 5)5章 救急蘇生法	・verrillのサイン ★理解度確認小テスト
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
歯科矯正学	歯科衛生学科 / 2年次	2026年度 / 前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回(DH4回)	1単位(30 時間)	必須	伊東 正志・鈴木 仁美 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の診断および治療法を理解する。</p> <p>【実務経験有】伊東 正志 : 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科矯正学に関する基礎知識を学生に教授する。 鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに矯正歯科治療における歯科衛生業務を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯、歯列、咬合の役割と全身の関係を説明できる。 2. 不正咬合の種類を列挙できる。 3. 不正咬合の原因と障害を把握し、矯正治療の目的を説明できる。 4. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。 5. 不正咬合に適した装置を識別し、その構造、機能を説明できる。 6. 矯正治療に用いる器具、器材とその取扱いについて説明できる。 <p>[授業の内容]</p>			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科矯正治療の概要 I 編1章	1) 歯科矯正学と歯科矯正治療の目的 2) 歯科矯正治療の需要と目的と必要性	・ベネフィット、リスク
2	成長・発育 I 編2章	1) 頭部・顎・顔面の成長発育 2) 顎の成長発育	・顎の発育 ・顔面の成長発育
3	正常咬合と不正咬合 I 編3章	1) 正常咬合 2) 不正咬合	・正常咬合 成立の条件と種類 ・不正咬合 歯の位置の異常
4		3) 不正咬合の分類・頻度 4) 不正咬合の原因と予防	歯列弓形態の異常 上下歯列弓関係の異常
5	矯正歯科診断 矯正歯科治療と力	1) 矯正歯科治療における診断と必要な検査 2) 症例分析	・インフォームドコンセント ・形態検査、画像検査、機能検査
6	一矯正力・顎整形力・保定	1) 歯の移動と固定 2) 歯の移動様式	・適切な矯正力 ・歯の移動様式
7	矯正装置 I 編6章	1) 矯正装置の種類 2) 自然保定と機械保定	・舌側弧線装置 ・マルチブラケット装置
8	上下顎の前後的關係の不調和 上下顎の垂直的關係の不調和	1) アングルの分類	・顎外固定装置 ・床矯正装置
9	II 編1章・2章 成人矯正	1) 過蓋咬合・開咬	・機械的矯正装置 ・歯列弓拡大装置
10	口腔顎顔面の形態異常と変形 歯の埋伏と歯の異常	1) 補助的・包括的矯正歯科治療 2) 成人矯正歯科治療の実際	・保定装置
11	矯正歯科治療時のトラブルへの対応 健康保険が適用される矯正治療	1) 口唇・口蓋裂・先天異常・顎変形症	埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯
12	III 編矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	1) 口腔筋機能療法	※12～15コマは歯科衛生士が担当
13		1) 齶蝕、歯肉炎、歯周疾患、歯根吸収、顎関節症 2) アレルギー、トラブルへの対応	
14			・プレイヤー(鉗子)の種類
15	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方	1) 主な矯正用器具とその取り扱い 2) 主な矯正材料とその使用方法	事前学習 次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢者歯科学	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	木村 年秀 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</p> <p>【実務経験有】木村 年秀: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに高齢者歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化と口腔の加齢変化について説明できる。 2. 高齢者とのコミュニケーションにおいて配慮すべき点について説明できる。 3. 要介護高齢者の身体疾患と口腔疾患について説明できる。 4. 高齢者歯科における医療安全について説明できる。 5. 器質的・機能的口腔ケアについて説明できる。 6. 高齢者の摂食・嚥下機能と障害について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	加齢による身体的・ 精神的変化	1) 加齢に伴う身体的機能の変化	・高齢者に多い全身疾患と口腔の関係
2		2) 高齢者の精神・心理的变化	・老化、うつ、せん妄
3		3) 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患	・悪性腫瘍、脳血管障害、心臓病、肺炎、パーキンソン病、認知症、高血圧症、糖尿病
4	高齢者の状態の把握		・根面う蝕、歯周病、トゥース・ウェア
5		1) 高齢者の生活機能の評価	・咬合、義歯、口腔カンジダ症、扁平苔癬
6		2) 高齢者歯科と臨床検査	・生活、ADL評価
7		3) 高齢者の栄養状態	・バイタルサイン、血液検査
8		4) 高齢者の薬剤服用	・栄養スクリーニング、栄養摂取方法
9	口腔のケア	1) 高齢者に対する口腔のケア	・薬物の影響、反応性の変化、副作用
10		2) 有病高齢者への口腔のケア	・高齢者の特徴
11		3) 要介護高齢者への口腔のケア	・虚血性心疾患、脳血管疾患、化学放射線療法
12	摂食・嚥下 リハビリテーション	1) 高齢者のリハビリテーションの概要	・高血圧、糖尿病、気管挿管
13		2) 摂食・嚥下の評価と対応	・国際障害分類、国際生活機能分類
14		3) 誤嚥性肺炎の予防のための訓練	・スクリーニングテスト
15	高齢者にかかわる 医療と介護	4) 在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション	・誤嚥性肺炎、嚥下訓練
15		5) 介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
障害者歯科学	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回(DH5回)	1単位(30 時間)	必須	関 愛子・土田 佳代 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な障害者(児)の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</p> <p>[実務経験有]関 愛子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに障害者歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。 土田 佳代: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに障害者歯科治療における歯科衛生業務について学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者(児)の概要を述べることができる。 2. 障害者(児)の全身的特徴と歯科の特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を述べる。 3. 障害者(児)の歯科治療について説明できる。 4. 障害者(児)の歯科における医療安全について説明できる。 5. 障害者(児)の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	障害の概念	1) 歯科医療におけるスペシャルニーズ	・障害の分類
2		2) ノーマライゼーションとバリアフリー	・ノーマライゼーション、バリアフリー
3		3) 精神発達・心理的発達と行動障害	・精神遅滞(染色体異常)
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	2) 運動障害	・広汎性発達障害、ADHD、LD、脳性麻痺
5		3) 感覚障害	・筋ジストロフィー、脊髄損傷、関節リウマチ、脳血管障害、ALS
6		4) 音声言語障害	・知覚障害、聴覚障害
6		5) 精神および行動の障害	・統合失調症、うつ病、てんかん、認知症、摂食障害
7		障害者の歯科医療と行動調整	1) コミュニケーションの方法
8	2) 行動療法		
9	摂食嚥下リハビリテーション	3) 体動のコントロール	・鎮静法、全身麻酔
9		4) 薬物的行動調整法	
10		1) 摂食・嚥下リハビリテーションとは	・摂食嚥下障害の評価法
10		2) 摂食・嚥下障害と口腔保健管理・栄養管理	・スクリーニングテスト
10		3) 摂食・嚥下療法の評価表	
10		4) 摂食機能療法	
11	健康支援と口腔衛生管理	1) 障害者本人や介護者が行う口腔のケア	※11～15コマは歯科衛生士が担当 ・器質的口腔ケア、機能的口腔ケア ・摂食5期、摂食嚥下障害と口腔管理、栄養管理 ・摂食・嚥下障害への対処法
12		2) 専門的口腔ケア	
13		3) 特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	
13		4) リスク評価と安全管理	
14	地域における障害者歯科	1) 障害者歯科と地域医療連携	
14		2) 保健・医療・福祉のネットワーク	
15			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ 「障害者歯科学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席状況(授業態度含む) : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法Ⅱ (前期)	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必 須	小野 愛梨 太田 克子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】小野 愛梨・太田 克子・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療に対する歯科衛生士の知識、技術、態度を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プローブの種類と操作方法が説明できる。 2. 歯・歯肉・口腔の検査ができる。 3. 超音波スケーラー、エアスケーラーを操作できる。 4. 歯面清掃、歯面研磨ができる。 5. 臨地実習における基礎技術が習得できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	オリエンテーション	1) 授業の流れと目標 2) 歯周病の進行	
2	口腔内診査 (歯式・プロービング)	1) 歯周検査の種類と内容 ・マネキン実習(復習)	<ul style="list-style-type: none"> ・動揺度、コンタクトの検査 ・根分岐部の検査 ・精密検査の項目 <p style="text-align: right;">★確認試験(筆記)</p>
3		2) 歯周精密検査の記載 3) 対象者の情報を整理する	
4		4) PTC、PMTc	
5	口腔内写真	1) 口腔内写真撮影	<ul style="list-style-type: none"> ・PTC相互100%術者磨き(OHI,OHI-S) ・プロービング ・口腔内写真撮影5枚法 ・ポジションとカメラの取り扱い <p style="text-align: right;">★実技チェック</p>
6		・相互実習	
7	歯面研磨	1) 歯面研磨の目的(復習) 2) 歯面研磨の術式(復習) (全顎)	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科機器の取り扱い ・臨床における注意事項 ・ポジションと姿勢 ・固定点
8	パワースケーラーの 基礎知識	・マネキン実習	<ul style="list-style-type: none"> ・超音波スケーラー、エアスケーラー ・フェザータッチ ・机上演習
9	超音波スケーラーの 基本操作		
10	超音波スケーラーの マネキン実習		
11			
12			
13	歯面清掃器の操作と 基礎知識	1) 歯面清掃器とは	<ul style="list-style-type: none"> ・適応症と禁忌症 ・機器の取り扱いと操作方法 ・患者への配慮 ・清掃方法 <p style="text-align: right;">★実技試験</p>
14	歯面清掃器の基本操作	1) ユニットマネキンでの歯面清掃器操作	
15		・ユニットマネキン実習	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% <ul style="list-style-type: none"> ・確認試験(筆記)に合格した者が実技試験を受験できる ・実技試験に合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・詳細な評価項目は評価基準表にて示す 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法実習Ⅱ(前期)	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回/30回	1単位/2単位(60時間)	必須	小野 愛梨 太田 克子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>[実務経験有]小野 愛梨・太田 克子・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療に対する歯科衛生士の知識、技術、態度を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プローブ操作が口腔内で実施できる。 2. 歯・歯肉・口腔の検査が口腔内で実施できる。 3. 超音波スケーラー、エアスケーラーを操作できる。 4. 歯面清掃、歯面研磨を口腔内で実施できる。 5. 臨地実習における基本的な口腔内診査の流れが説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	1) 授業の流れと目標	
2	口腔内観察と口腔内診査の相互実習	2) 歯式、プロービング ・マネキン実習(復習)	<ul style="list-style-type: none"> ・動揺度、コンタクトの検査 ・根分岐部の検査 ・精密検査の項目 <p style="text-align: right;">★実技チェック</p>
3		1) 口腔内診査 ・相互実習	
4		2) 歯周検査の種類と内容	
5	シクルスケーラーの相互実習	3) 歯周精密検査の記載	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジションと姿勢 ・固定点 ・基本の3運動
6		4) 対象者の情報を整理する	
7	PTC、PMTCの相互実習	1) シクルスケーラーの操作(上下前歯部)	<ul style="list-style-type: none"> ・染色PTC100%磨き ・OHI, OHI-S ・PMTC全顎(2ペースト)
8		2) シクルスケーラーの操作(左右臼歯部)	
9	超音波スケーラーの相互実習	1) PTC	<ul style="list-style-type: none"> ・フェザータッチ ・留意点の理解
10		2) PMTC	
11		1) 口腔内での超音波スケーラー操作(下顎前歯部)	
12		(上顎前歯部) (右側臼歯部) (左側臼歯部)	
13	歯面清掃器の相互実習	1) 口腔内での歯面清掃器の操作	<ul style="list-style-type: none"> ・適正角度 ・操作留意点 ・把持の仕方 ・固定、力、角度、動かし方 <p style="text-align: right;">★実技チェック</p>
14			<ul style="list-style-type: none"> ・安全な器械操作 ・患者への配慮を行う、患者の心理 ・歯面研磨(1ペースト)
15			事前学習
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習・実技試験 : 90% 2) 出席率 : 10% <ul style="list-style-type: none"> ・実技チェックに合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・詳細な評価項目は評価基準表にて示す 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯周病予防法実習Ⅱ(後期)	歯科衛生学科/2年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回/30回	1単位/2単位(60時間)	必 須	小野 愛梨 太田 克子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】小野 愛梨・太田 克子・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療に対する歯科衛生士の知識、技術、態度を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔内写真撮影5枚法の必要性が説明でき、撮影することができる。 2. 6点法にて全顎の歯周精密検査ができる。 3. 歯ブラシ、その他の清掃用具を正しく用いてPTCができる。 4. 各キュレットスケーラーの違いを理解し植立模型上で操作できる。 5. キュレットスケーラーのシャープニングができる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	プロービング	1) プロービング全顎	<ul style="list-style-type: none"> ・動揺度、コンタクト検査 ・精密検査 <p style="text-align: right;">★実技チェック</p>
2		・相互実習	
3	シッケルスケーリング	1) プロービング全顎	<ul style="list-style-type: none"> ・動揺度、コンタクト検査 ・精密検査 ・基本の3運動 ・固定点、ポジション、姿勢 ・染色PTC100%磨き ・歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシの使い方
4		2) シッケルスケーリング (下顎前歯)	
5	PTC相互実習		
6			
7			
9	キュレットスケーラーの 操作法	1) 各キュレットスケーラーの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーシーとユニバーサルの違いとそれぞれの特徴 ・キュレットスケーラーの目的 ・操作角度、挿入方法、側方圧 ・スケーリングとルートプレーニングの違い <p style="text-align: right;">★実技チェック</p>
10			
11		2) 机上実習(植立模型) (上下顎前歯部)	
12		(左右側臼歯部)	
13		3) 植立模型での歯石除去	<ul style="list-style-type: none"> ・小白歯、大白歯の形態と注意すべき点 ・操作角度 ・刃部を確実に歯面にあてる ・適正角度、原型の形
14		(上下顎前歯部)	
14		(上下顎臼歯部)	
15	キュレットスケーラーの シャープニング方法	1) シャープニングの意義と目的 2) シャープニングの準備と方法	<p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</p>
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% <ul style="list-style-type: none"> ・実技チェックに合格した者が以後の相互実習に参加することができる ・詳細な評価項目は評価基準表にて示す 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅱ	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	本田 里恵・鈴木 仁美 小野 愛梨・太田 克子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。健康教育の実践に必要な知識および態度を習得することができる。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・鈴木 仁美・小野 愛梨・太田 克子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 2. 口腔清掃方法の選択と指導ができる。 3. リスクに応じた口腔衛生指導ができる。 4. 各ライフステージ別の特徴および歯科保健行動を説明できる。 5. 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。 			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生過程 歯科口腔保健の推進に向けて 各ライフステージにおける保健指導方法の実践 口腔衛生管理の実践 集団における歯科保健指導	1) 歯科衛生過程の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・思考と行動のプロセス ・クリティカルシンキング ・臨床推論 ・ニード理論、歯科衛生ニーズ ・主訴、現病歴、全身の既往歴、家族歴 ・書面化の必要性 ・症例展開 ・デンタルフロスの指導方法 F字型・P字型 ・タフトブラシの指導方法 ・歯間ブラシの指導方法 ・フッ化物塗布 ・PTC ・仕上げ磨き ・交換期の口腔衛生指導法 ・補綴物に応じた補助用具の指導法 ・禁煙指導 ・舌ブラシの指導方法 ・義歯の着脱方法 ・義歯ブラシの指導法
2		2) 歯科衛生過程の各構成要素	
3		3) 歯科衛生過程を進めるうえで重要な考え方	
4		4) 歯科衛生士の視点による問題解決	
5		1) 産婦人科 ※食生活指導含む	
6		2) 乳児期	
7		3) 幼児期	
8		4) 学齢期	
9		矯正装置	
10		5) 成人期・青年期	
11			
12		6) 老年期	
13		義歯管理・粘膜管理	
14		1) 小学校シナリオ作成	
15		2) 小学校媒体作成 3) 小学校リハーサル	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・歯科保健指導ハンドブック 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科保健指導演習	歯科衛生学科/2年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	本田 里恵・横井 敦子 小野 愛梨・太田 克子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・横井 敦子・小野 愛梨・太田 克子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 2. 各ライフステージの特徴が説明できる。 3. 各ライフステージに応じた歯科疾患予防のための保健指導ができる。 4. 各ライフステージに応じたQOLと口腔機能向上のための保健指導ができる。 5. 各ライフステージに応じた食育支援および禁煙指導と支援ができる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	ライフステージに応じた歯科保健指導 (歯科疾患の予防)	1) 乳児期および学齢期	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の特徴 ・健全な歯・顎骨の成長・育成 ・外傷 ・母体栄養および胎児発育のための食育 ・歯口清掃用具 ・禁煙支援
2		2) 妊産婦期	
3		3) 成人期および高齢期	
4	ライフステージに応じた歯科保健指導 (QOL・口腔機能維持向上)	1) 乳幼児期および学齢期	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能獲得に影響を及ぼす習癖 ・口腔機能に関わる病気や症状とその対応、指導 ・咀嚼機能の維持・向上の重要性 ・誤嚥性肺炎の予防 ・食育指導 ・誤嚥・窒息防止のための安全性に配慮した食べ方の指導 ・PDCAサイクル
5		2) 成人期および高齢期	
6		3) ライフステージに応じた食育支援	
7	要介護高齢者体験・車いすの取り扱い	3) ライフステージに応じた食育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康力 ・指導案 ・教育媒体
8			
9			
10	要介護高齢者の口腔健康管理	1) 口腔衛生管理法とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジション ・粘膜のケア ・摂食嚥下評価方法 ・口腔健康管理に使用する物品
11		1) 口腔機能管理法とは	
12		2) 摂食嚥下訓練の実践	
13	歯科口腔保健の推進に向けて	1) 歯科口腔保健法の制定	<ul style="list-style-type: none"> ・主訴、現病歴、全身の既往歴、家族歴 ・書面化の必要性
14		2) 歯科疾患の予防における目標	
15			
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「歯科診療補助論 第2版」 「高齢者歯科学」「障害者歯科学 第2版」 ・歯科保健指導ハンドブック 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科診療補助論Ⅱ	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
30回	2単位 (60 時間)	必 須	鈴木 仁美・久保 直美 太田 克子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>様々なライフステージにおける歯科医療に対応するため、各歯科治療時の補助において必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。</p> <p>【実務経験有】鈴木 仁美・久保 直美・太田 克子:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保存治療時の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 2. 補綴治療時の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 3. 口腔外科治療・歯科麻酔時の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 4. 矯正歯科治療の診療補助における治療手順を理解し薬剤および器材の準備ができる。 5. 小児歯科治療の診療補助に必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	歯科診療における主要器材および機器	1)麻酔用機器の名称と用途	・注射器、注射針
2		2)歯および口腔検査用機器	・コンタクトゲージ
3		3)切削用機器	・電氣的根管長測定器
4		4)成形修復用機器	・手用機器
5		5)歯内療法用機器	・回転切削器具
6		6)歯周治療用機器	・光照射器
7		7)印象採得用機器	・充填用機器
8		8)歯冠修復用機器	・ラバーダム防湿用の器材
9		9)有床義歯用機器	・根管充填用器材
10		10)口腔外科用機器	・ポケット計測用機器
11	歯内療法時の診療補助	1)歯髄処置の流れ	・歯石除去用機器
12		2)歯内療法トレーセッティング	・印象材練和器
13	保存修復時の診療補助	1)歯間分離	・口腔内スキャナー
14		2)直接修復トレーセッティング	・シェードガイド
15		3)コンポジットレジン充填	・平行測定器
		4)仮封・合着	・咬合器
			・バイトゲージ
			・抜歯鉗子
			・酸素吸入器
			・直接抜髄法(麻酔抜髄法)
			・生活歯髄切断法
			・根管治療、根管充填
			★小テスト
			★小テスト
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「保存修復学・歯内療法学」 「歯周病学」「歯科補綴学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		※授業内の小テストに合格した者が試験を受けることができる。 1) 実習・実技試験 : 50% 2) 出席状況(授業態度含む) : 50%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16			★小テスト
17	補綴治療時の診療補助	1)補綴治療の検査	
18		2)クラウン・ブリッジの治療(生活歯)	
19		3)クラウン・ブリッジの治療(失活歯)	
20		4)クラウン・ブリッジトレーセッティング	★小テスト
21		5)部分床義歯の治療の流れ	・チェックバイト、咬合採得
22		6)義肢装着患者指導	・平行測定、顎間関係の記録
23		7)技工関連の管理	
24		8)部分床義歯トレーセッティング	★小テスト
25		9)全部床義歯	
26	口腔外科治療時の診療補助	1)問診・観察・検査	・麻酔、点滴の取り扱いと管理法
27		2)普通抜歯トレーセッティング	★小テスト
28		3)インプラント	
29	小児歯科治療時の診療補助	1)診療補助と歯科衛生	
30		2)保存修復	
31	矯正治療時の診療補助	1)顔面規格写真	・画像検査
32		2)可撤式装置・固定式装置	・バンド装着器具
33	歯周外科治療時の診療補助	1)歯肉切除術	★小テスト
34		2)歯周ポケット搔爬術	
35		3)新付着術	
36		4)フラップ手術	
37		5)歯周組織再生誘導法	
38		6)遊離歯肉移植術	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助演習	歯科衛生学科/2年次	2026年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	中村 宥香・小野 愛梨 横井 敦子・久保 直美(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 専門的な歯科診療の補助のために必要な基本的知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】中村 宥香・小野 愛梨・横井 敦子・久保 直美:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な全身疾患とその対応が説明できる。 2. 配慮を要する全身疾患患者、大規模災害者の対応ができる。 3. 周術期、歯科訪問診療時の口腔衛生管理が説明できる。 4. 前歯及び臼歯の暫間被覆冠を作製できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	(診)Ⅱ編1章主な全身疾患とその対応	1) 主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系疾患 ・脳血管疾患 ・呼吸器系疾患 ・代謝性疾患 ・肝疾患 ・腎疾患 ・血液疾患 ・免疫・膠原病 ・感染症 ・神経系・精神疾患 ・フェーズごとの歯科保健指導 ・災害時に発生する歯科的問題 ・保険制度における周術期口腔機能管理
2		2) 口腔に現れる特徴	
3		3) 歯科診療上の注意点	
4		4) 投与される薬と副作用・注意事項	
5	(予/保)Ⅳ編2章配慮を要する者への歯科衛生介入	1) 災害と避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系・精神疾患 ・フェーズごとの歯科保健指導 ・災害時に発生する歯科的問題 ・保険制度における周術期口腔機能管理
6		2) 災害時の歯科保健医療	
7	周術期	1) 周術期における口腔機能管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保険制度における周術期口腔機能管理
8			
9	歯科訪問診療	1) 歯科訪問の診療補助	・歯科訪問診療の流れ
10			
11	コンポジットレジン修復実習	1) 5級窩洞の修復実技	
12			
13	暫間被覆冠作製実習	1) 前歯	
14			
15		2) 臼歯	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「臨床検査」 ・「歯科衛生士のための 全身疾患ハンドブック」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態																																																																																											
臨床検査	歯科衛生学科/2年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習																																																																																											
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																																																											
15回	1単位(30時間)	必須	上里 隆裕・大城 與 鈴木 仁美・久保 直美(実務経験有)																																																																																											
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査(口腔内検査、画像検査)および全身の一般検査の意義と関連を理解する。</p> <p>【実務経験有】上里 隆裕・大城 與: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科医学全般に関する基礎知識、関連性を学生に教授する。鈴木 仁美・久保 直美: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科医学全般に関する基礎知識、関連性を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の種類と目的を理解し、検査値の評価の重要性を説明できる。 2. 放射線の生物学的影響とエックス線画像の形成原理を概説できる。 3. 口内法およびパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。 4. 口内法およびパノラマエックス線解剖の概要を表記できる。 5. バイタルサインの測定が実施できる。 <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 15%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 35%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="5">臨床検査</td> <td>1) 臨床検査とは/生体検査</td> <td>・臨床検査の必要性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 生体検査</td> <td>・検査の種類</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3) 検体検査</td> <td>・体温、脈拍、血圧、心機能、肺機能、筋電図、脳波</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>・血液を用いる検査</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>・血液凝固、線溶系検査</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="10">歯科放射線</td> <td>4) 口腔領域の臨床検査</td> <td>・生化学検査</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1) 放射線とエックス線</td> <td>・血液型検査</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2) 放射線の影響</td> <td>・口臭の国際分類と検査法</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3) 歯科用エックス線装置</td> <td>・味覚検査、金属アレルギー検査</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>4) エックス線画像の形成</td> <td>・エックス線の発生と物質の相互作用</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>5) 放射線の防護と管理</td> <td>・放射線障害の分類</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>6) フィルム処理、デジタルエックス線システム</td> <td>・エックス線撮影装置の種類</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7) 撮影法(口外法・口内法)</td> <td>・エックス線フィルム</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>8) 撮影法(口内法、口外法・正常像と病変)</td> <td>・放射線防護の実際</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>9) パノラマエックス線撮影実習</td> <td>・デジタルエックス線システムの特徴</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10) パノラマエックス線撮影の読影</td> <td>・口内法の撮影方法</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>11) 口内法撮影実習</td> <td>・口外法の撮影方法</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>12) 口内法エックス線写真の読影、まとめ</td> <td>・パノラマエックス線撮影の位置づけ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>臨床検査の実際</td> <td>1) バイタルサインの測定</td> <td>・パノラマエックス線撮影の正常像</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・口内法の位置づけ、二等分法</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・口内法エックス線撮影の正常像</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・体温、脈拍、血圧、SpO₂の測定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・生体モニターの確認</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: center;">事前学習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	臨床検査	1) 臨床検査とは/生体検査	・臨床検査の必要性	2	2) 生体検査	・検査の種類	3	3) 検体検査	・体温、脈拍、血圧、心機能、肺機能、筋電図、脳波	4		・血液を用いる検査	5		・血液凝固、線溶系検査	6	歯科放射線	4) 口腔領域の臨床検査	・生化学検査	7	1) 放射線とエックス線	・血液型検査	8	2) 放射線の影響	・口臭の国際分類と検査法	9	3) 歯科用エックス線装置	・味覚検査、金属アレルギー検査	10	4) エックス線画像の形成	・エックス線の発生と物質の相互作用	11	5) 放射線の防護と管理	・放射線障害の分類	12	6) フィルム処理、デジタルエックス線システム	・エックス線撮影装置の種類	13	7) 撮影法(口外法・口内法)	・エックス線フィルム	14	8) 撮影法(口内法、口外法・正常像と病変)	・放射線防護の実際	15	9) パノラマエックス線撮影実習	・デジタルエックス線システムの特徴			10) パノラマエックス線撮影の読影	・口内法の撮影方法			11) 口内法撮影実習	・口外法の撮影方法			12) 口内法エックス線写真の読影、まとめ	・パノラマエックス線撮影の位置づけ		臨床検査の実際	1) バイタルサインの測定	・パノラマエックス線撮影の正常像				・口内法の位置づけ、二等分法				・口内法エックス線撮影の正常像				・体温、脈拍、血圧、SpO ₂ の測定				・生体モニターの確認				事前学習				次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																																																											
1	臨床検査	1) 臨床検査とは/生体検査	・臨床検査の必要性																																																																																											
2		2) 生体検査	・検査の種類																																																																																											
3		3) 検体検査	・体温、脈拍、血圧、心機能、肺機能、筋電図、脳波																																																																																											
4			・血液を用いる検査																																																																																											
5			・血液凝固、線溶系検査																																																																																											
6	歯科放射線	4) 口腔領域の臨床検査	・生化学検査																																																																																											
7		1) 放射線とエックス線	・血液型検査																																																																																											
8		2) 放射線の影響	・口臭の国際分類と検査法																																																																																											
9		3) 歯科用エックス線装置	・味覚検査、金属アレルギー検査																																																																																											
10		4) エックス線画像の形成	・エックス線の発生と物質の相互作用																																																																																											
11		5) 放射線の防護と管理	・放射線障害の分類																																																																																											
12		6) フィルム処理、デジタルエックス線システム	・エックス線撮影装置の種類																																																																																											
13		7) 撮影法(口外法・口内法)	・エックス線フィルム																																																																																											
14		8) 撮影法(口内法、口外法・正常像と病変)	・放射線防護の実際																																																																																											
15		9) パノラマエックス線撮影実習	・デジタルエックス線システムの特徴																																																																																											
		10) パノラマエックス線撮影の読影	・口内法の撮影方法																																																																																											
		11) 口内法撮影実習	・口外法の撮影方法																																																																																											
		12) 口内法エックス線写真の読影、まとめ	・パノラマエックス線撮影の位置づけ																																																																																											
	臨床検査の実際	1) バイタルサインの測定	・パノラマエックス線撮影の正常像																																																																																											
			・口内法の位置づけ、二等分法																																																																																											
			・口内法エックス線撮影の正常像																																																																																											
			・体温、脈拍、血圧、SpO ₂ の測定																																																																																											
			・生体モニターの確認																																																																																											
			事前学習																																																																																											
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する																																																																																											
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																																																												
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ「臨床検査」 ・歯科衛生学シリーズ「放射線学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 60% 2) 実習の取り組み、演習態度 : 30% 3) 出席率 : 10% 																																																																																												

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨地実習Ⅱ	歯科衛生学科/2年次	2026年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	1単位(45時間)	必須	太田 克子・横井 敦子・小野 愛梨 鈴木 仁美・久保 直美(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】太田 克子・横井 敦子・小野 愛梨・鈴木 仁美・久保 直美:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージ別の口腔健康管理ができるよう教授する。</p>			
[内容と計画]			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 乳幼児期	市町村保健センター 保育園等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健活動の実際が把握できる 2. 地域保健活動における多職種の役割を知る 3. 地域保健活動における歯科衛生士の役割を知る 4. 地域保健活動における歯科衛生士と多職種の連携を知る 5. 母子保健法における市町村が実施する母子保健事業がわかる 6. カンファレンスの必要性を理解した発言ができる 	
2 学齢期	小学校	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学齢期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健活動を理解する 2. 学齢期の身体や口腔機能の発達段階を理解する 3. 学齢期の健康教育に必要な情報を収集できる 4. 学齢期の健康教育の計画立案ができる 5. 学齢期の健康教育の内容方法が説明できる 6. 小学校における学齢期の健康教育が実践できる 	
3 老年期	高齢者施設	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者施設における要介護高齢者に関わる他職種の業務内容を理解する 2. 高齢者施設における要介護高齢者の生活機能を知る 3. 高齢者施設における口腔健康管理において時間や方法、道具などがわかる 4. カンファレンスの必要性を理解した発言ができる 	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「歯科予処置論・歯科保健指導論 第2版」 「小児歯科学」「保健生態学」 「高齢者歯科学」「障害者歯科学 第2版」 <small>「歯科衛生士としての概念確立」</small>		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 実習への参加状況および態度、日々の実習日誌、レポート等から総合的に評価する (詳細については臨地実習評価表に準ずる)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨地実習Ⅲ	歯科衛生学科/2年次	2026年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	7単位(315時間)	必須	太田 克子・横井 敦子・小野 愛梨 鈴木 仁美・久保 直美(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】太田 克子・横井 敦子・小野 愛梨・鈴木 仁美・久保 直美:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージ別の口腔健康管理ができるよう教授する。</p>			
[内 容 と 計 画]			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 配慮を要する者	総合病院	1.総合病院の特殊性を知る 2.安全管理の重要性を知る 3.周術期の口腔健康管理について知る 4.口腔健康管理・摂食嚥下の支援・特殊環境下での 歯科診療から歯科衛生士の役割を知る	
2 乳幼児～老年期	歯科診療所	1. 歯科医師、歯科衛生士からの指示内容を踏まえた対応ができる 2. 対象者の守秘義務を遵守できる 3. 医療安全に配慮した行動ができる 4. 器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる (詳細は「実習要綱」を参照)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 「小児歯科学」「保健生態学」 「高齢者歯科学」「障害者歯科学 第2版」 <small>「歯科衛生士としての概念」(2015年) 第2版</small>		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 1) 臨床実習指導者からの評価 : 60% 2) レポート内容および態度 : 40% (詳細については評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔機能管理学	歯科衛生学科/2年次	2026年度/後期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	2単位 (30 時間)	必 須	後藤 拓朗・本田 里恵 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上に向けて、口腔機能管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を修得する。</p> <p>【実務経験有】後藤 拓朗: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに摂食嚥下に対する基礎知識を学生へ教授する。 本田 里恵: 歯科衛生士の資格を活かし、口腔機能管理における歯科衛生士の役割と必要な知識、技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達と加齢に伴う細胞、組織、器官の形態的および機能的な変化を概説できる。 2. 口腔機能リハビリテーションを概説できる。 3. 口腔機能の現状を把握するための評価ができる。 4. 口腔機能訓練(間接訓練、直接訓練)ができる。 5. 各ライフステージ別の口腔機能管理ができる。 			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション	1) 摂食機能療法の実施 2) 生涯を通じて	・摂食機能療法 ・第三の医学
2	リハビリテーションと摂食嚥下	1) リハビリテーション医学・医療総論 2) 摂食嚥下リハビリテーションの実際と役割	・地域包括ケアシステム、地域連携 ・摂食嚥下のプロセス、口腔健康管理
3	摂食嚥下機能のメカニズム	1) 摂食嚥下び関わる構造(解剖)	・口腔、咽頭、喉頭、鼻腔の構造
4		2) 摂食嚥下に関わる構造(機能)	・摂食運動、嚥下運動
5		3) 発達期の摂食嚥下機能	・発達期の口腔形態、機能の定型発達 ・離乳期、乳児期の機能発達
6	咬合および咀嚼機能の管理と評価	1) 咬合と咀嚼機能 2) 咀嚼の評価と管理	・下顎運動と咬合様式 ・咀嚼機能の評価法
7		3) 咬合・咀嚼と全身	・オーラルフレイル、口腔機能低下症
8	栄養評価	1) 栄養スクリーニングと栄養アセスメント	・栄養スクリーニング ・栄養アセスメント
9	摂食嚥下の評価	1) 歯科衛生士が行うスクリーニングテストと観察評価	・発達期の摂食嚥下機能の評価
10	摂食嚥下の評価		・精密検査
11	摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理	1) 口腔衛生管理の実際	・口腔衛生管理実施前の評価 ・姿勢調整 ・口腔衛生管理の方法 ・口腔衛生管理中のリスク管理
12			・摂食嚥下障害に対する訓練 ・食形態
13	摂食嚥下訓練	1) 摂食嚥下障害に対する訓練計画立案 2) 摂食嚥下障害に対する食事指導	・基礎訓練(間接訓練)の選択と実施 ・摂食訓練(直接訓練)の選択と実施
14		3) 各病態に対する訓練法とその選択	
15	事例検討	1) 摂食嚥下障害に関する事例	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版 ・歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学 第2版」 「高齢者歯科学」「臨床検査」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

2026年度

授業進度計画

(シラバス)

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校 歯科衛生学科3年

歯科衛生学科/3年制

(2024年度入学生)

分野	授業科目		授業形態	単位数	時間数	期	1年		2年		3年	
	教育内容	科目名					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎	生物学	講義	1	15	前期	15					
		教育方法論	講義	1	15	後期		15				
		心理学	講義	1	15	後期		15				
		人間関係論	演習	2	60	通年	30	30				
		社会人基礎講座Ⅰ	講義	1	15	後期		15				
		社会人基礎講座Ⅱ	講義	1	15	前期					15	
		情報処理Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
		情報処理Ⅱ	演習	1	30	前期						30
		歯科英語	講義	1	15	後期				15		
	分野小計			10	210		45	105	0	15	45	0
基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	解剖学・組織発生学	講義	2	30	前期	30					
		栄養と代謝	演習	1	30	後期		30				
		生理学	講義	1	15	前期	15					
		小計		4	75		45	30	0	0	0	0
専門基礎分野	歯・口腔の構造と機能	口腔組織発生学	講義	1	15	前期	15					
		口腔解剖学	講義	2	30	前期	30					
		歯牙解剖学	講義	1	15	後期		15				
		口腔生理学	講義	1	15	前期	15					
	小計			5	75		60	15	0	0	0	0
専門基礎分野	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	講義	1	15	前期	15					
		口腔病理学	講義	2	30	前期	30					
		薬理学	講義	2	30	後期		30				
		微生物学・口腔微生物学	講義	1	15	後期		15				
	小計			6	90		45	45	0	0	0	0
専門基礎分野	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・社会福祉論	講義	2	30	前期					30	
		口腔衛生学Ⅰ	講義	2	30	前期	30					
		口腔衛生学Ⅱ（統計学含む）	演習	1	30	通年						30
		衛生学・公衆衛生学	講義	2	30	前期						30
	小計			7	120		30	0	0	0	90	0
	分野小計			22	360		180	90	0	0	90	0
専門基礎分野	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	講義	2	30	通年	30					
		小計		2	30		30	0	0	0	0	0
		歯科保存学	演習	1	30	後期		30				
		歯周病学	演習	1	30	後期		30				
		歯科補綴学	演習	1	30	前期			30			
		口腔外科学・麻酔学	演習	1	30	前期			30			
		小児歯科学	講義	1	15	後期		15				
		歯科矯正学	演習	1	30	前期			30			
		高齢者歯科学	演習	1	30	前期			30			
		障害者歯科学	演習	1	30	前期			30			
			小計			8	225		0	75	150	0
専門基礎分野	歯科予防処置論	歯科予防処置論基礎	講義	1	15	前期	15					
		歯周病予防法Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
		歯周病予防法実習Ⅰ	演習	1	30	後期		30				
		歯周病予防法Ⅱ	演習	1	30	通年			30			
		歯周病予防法実習Ⅱ	演習	2	60	通年			60			
		う蝕予防法	演習	1	30	後期		30				
		歯科予防処置実践実習	講義	1	15	前期					15	
	小計			8	210		15	90	90	0	15	0
専門基礎分野	歯科保健指導論	歯科保健指導論基礎	講義	1	15	前期	15					
		歯科保健指導論Ⅰ	演習	2	60	後期		60				
		栄養指導	講義	1	15	通年		15				
		歯科保健指導論Ⅱ	演習	1	30	前期			30			
		歯科保健指導演習	演習	1	30	後期				30		
		歯科保健指導論Ⅲ	演習	1	30	前期					30	
	小計			7	180		15	75	30	30	30	0

47	歯科診療補助論	歯科診療補助論 I	演習	2	60	前期	60						
48		歯科材料学	演習	2	60	後期		60					
49		歯科診療補助論 II	演習	2	60	前期			60				
50		歯科診療補助演習	演習	1	30	後期				30			
51		臨床検査	演習	1	30	前期			30				
52		救命救急法	講義	1	15	通年						15	
		小計		9	255		60	60	90	30	15	0	
53	専門分野	臨地実習 (臨床実習含む)	臨地実習 I	実習	1	45	通年	45					
54			臨地実習 II	実習	1	45	通年			45			
55			臨地実習 III	実習	7	315	通年			315			
56			臨地実習 IV	実習	9	405	通年					405	
57			臨地実習 V	実習	2	90	通年					90	
		小計		20	900		45	0	360	0	495	0	
		分野小計		54	1,800		165	300	720	60	555	0	
58	選択分野	口腔機能管理学	講義	2	30	後期				30			
59		専門職連携演習	演習	1	30	前期					30		
60		歯科衛生学の統合と実践	演習	2	60	通年					60		
61		総合歯科医学セミナー	講義	2	30	後期						30	
		小計		7	150		0	0	0	30	90	30	
		分野小計		7	150		0	0	0	30	90	30	
	授業形態別	講義	28	38	570	-	255	135		45	105	30	
		演習	28	35	1,050	-	90	360	360	60	180	0	
		実習	5	20	900	-	45	0	360	0	495	0	
	総計			93	2,520	0	390	495	720	105	780	30	

歯科衛生学科

歯科衛生学科3年(2024年(R6)度生)17期生

力No.	No.	科目	種別	前期 (回)	後期 (回)	通年 (回)	単位	授業担当者	ページ
6	1	社会人基礎講座Ⅱ	講義	8			1	横井 敦子・就職部	1
8	2	情報処理Ⅱ	演習	15			1	田井 麻友美	2
21	3	衛生行政・社会福祉論	講義	15			2	内田 弘子	3
23	4	口腔衛生学Ⅱ(統計学含む)	演習	15		○	1	荻野 芳	4
24	5	衛生学・公衆衛生学	講義	15			2	太田 克子	5
40	6	歯科予防処置実践実習	講義	8			1	横井 敦子・小野 愛梨 太田 克子	6
46	7	歯科保健指導論Ⅲ	演習	15			1	本田 里恵・太田 克子	7
52	8	救命救急法	講義	8		○	1	久保 直美・鈴木 仁美	8
56	9	臨地実習Ⅳ	実習	405時間		○	9	太田 克子・小野 愛梨 鈴木 仁美・横井 敦子	9
57	10	臨地実習Ⅴ	実習	90時間		○	2	太田 克子・小野 愛梨 本田 里恵・横井 敦子	10
59	11	専門職連携演習	演習	15			1	横井 敦子・中村 宥香 小野 愛梨・久保 直美	11
60	12	歯科衛生学の統合と実践	演習	15		○	2	本田 里恵・久保 直美 横井 敦子・鈴木 仁美	12
					15			横井 敦子・小野 愛梨 鈴木 仁美・太田 克子	13
61	13	総合歯科医学セミナー	講義		15		2	岡村 純子 太田 克子・鈴木 仁美	14
合計				129	30		26		

※上記は変更になることもあります。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																					
社会人基礎講座Ⅱ	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義・演習・実習																																					
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者																																					
8回	1単位 (16時間)	必 須	横井 敦子・就職部																																					
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>就職活動において必要なスキルを身に付けることを目的とする。臨床実習を経験し、より具体的になった自分自身の歯科衛生士像を明確にし、目標とする就職先を選択できる力を育成し就職活動に備える。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職活動に向けての心構えができる。 2. 就職活動のスケジュールがわかる。 3. 自身の目標とする就職先の条件等希望内容が列挙できる。 4. 歯科衛生士像が具体化できそれを踏まえた自己PRが履歴書に記載できる。 <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 30%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>就職活動とは</td> <td>1)就職活動のスケジュール 2)就職活動の進め方</td> <td rowspan="8" style="vertical-align: top; padding: 5px;"> ・適切な言葉遣い ・福利厚生 ・各種保険 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>3)見学・面接時における立ち居振る舞い 4)面接時の基本動作</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>就職先を選択する 歯科業界を知る</td> <td>1)求人票の閲覧方法 2)求人票の見方</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歯科衛生士像の具体化</td> <td>1)自身の歯科衛生士観 2)自身の歯科衛生士像を描く</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>3)自身の理想とする歯科衛生士の将来像 1)歯科衛生士としての将来像を発表する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>履歴書の書き方</td> <td>1)各種書類 2)履歴書の基本情報</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>1)自己PRの記載 2)面接練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>1)歯科衛生観の確立 2)希望見学施設の選択</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: center;">事前学習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	就職活動とは	1)就職活動のスケジュール 2)就職活動の進め方	・適切な言葉遣い ・福利厚生 ・各種保険	2		3)見学・面接時における立ち居振る舞い 4)面接時の基本動作	3	就職先を選択する 歯科業界を知る	1)求人票の閲覧方法 2)求人票の見方	4	歯科衛生士像の具体化	1)自身の歯科衛生士観 2)自身の歯科衛生士像を描く	5		3)自身の理想とする歯科衛生士の将来像 1)歯科衛生士としての将来像を発表する	6	履歴書の書き方	1)各種書類 2)履歴書の基本情報	7		1)自己PRの記載 2)面接練習	8		1)歯科衛生観の確立 2)希望見学施設の選択				事前学習				次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																					
1	就職活動とは	1)就職活動のスケジュール 2)就職活動の進め方	・適切な言葉遣い ・福利厚生 ・各種保険																																					
2		3)見学・面接時における立ち居振る舞い 4)面接時の基本動作																																						
3	就職先を選択する 歯科業界を知る	1)求人票の閲覧方法 2)求人票の見方																																						
4	歯科衛生士像の具体化	1)自身の歯科衛生士観 2)自身の歯科衛生士像を描く																																						
5		3)自身の理想とする歯科衛生士の将来像 1)歯科衛生士としての将来像を発表する																																						
6	履歴書の書き方	1)各種書類 2)履歴書の基本情報																																						
7		1)自己PRの記載 2)面接練習																																						
8		1)歯科衛生観の確立 2)希望見学施設の選択																																						
			事前学習																																					
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する																																					
[参考テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																						
就職の手引き 熱血！森吉弘の就勝ゼミ(動画教材) 配布プリント		1) 出席状況・授業参加状況・提出物 :100%																																						

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科	年 度 / 時 期	授 業 形 態
情報処理Ⅱ	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必 須	田井 麻友美 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>PowerPoint2021を使って企画書から発表までを行えるプレゼンテーション資料を作成できるスキルを身につけ、実際にプレゼンテーション発表することを目的とする。</p> <p>【実務経験有】田井 麻友美:MCT2010等の資格をもち、企業等での指導経験も踏まえて、学生が社会に出てから必要なスキルを教授できる。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1. データを整理・分析し、プレゼンテーション資料をPowerPointで作成ができる。</p> <p>2. PowerPoint2021のアニメーションを使い、プレゼンテーションができる。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	プレゼンテーション資料の作成	1)スライドの挿入	
		2)プレスホルダと文字の編集	
		3)イラスト、画像の挿入	
		4)ワードアートの挿入	
2		5)グラフ、表の挿入	
		6)図形の作成、編集	
		7)アニメーション効果設定	
3		8)スライドマスタ	
		9)ノートの作成	
		10)スライドショーの実行	
4		11)アニメーション効果設定	
		12)スライドマスタ	
		13)ノートの作成	
		14)スライドショーの実行	
5	パソコンを用いた 演習(歯科衛生研究)	1) 歯科衛生研究(情報収集・分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づいて調査データを分析し、仮説を立てる ・調査データの図・表の作成 ・全体構成および発表原稿の制作
6			
7			
8			
9			
10		2) 歯科衛生研究(パワーポイントの制作)	
11			
12			
13			
14			
15	課題発表	1)プレゼンテーション発表	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・「よくわかるMicrosoft Power Point2021基礎」 富士通エフ・オー・エム株式会社 FOM出版		1) 実習・実技評価	: 60%
		2) 課題・レポート	: 30%
		3) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
衛生行政・社会福祉論	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	2単位 (30 時間)	必 須	内田 弘子(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>日本の保険・医療・福祉制度と医事法制を理解し歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】内田 弘子:保健師の資格を活かし、医療と福祉に関する法制度を学生に教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1. 歯科衛生士資格の成り立ちと目的を説明できる。 2. 歯科衛生士義務とその法的根拠を説明できる。 3. 憲法第25条で示す社会保障の種類を列挙できる。 4. 医療保険の種類とその法律を説明できる。 5. 歯科衛生士に関する社会福祉を説明できる。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	社会保障制度	1)わが国の社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の目的 ・歯科衛生行政の組織 ・国民の健康と傷病の状況 ・医療関係者の現況
2		2)社会保障の目標と機能	
3	衛生行政	3)社会保障費の給付と国民負担	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的扶助 ・老人福祉 ・母子福祉 ・障害者福祉
4		4)ライフステージ別の社会保障制度	
5	衛生関係法	1)衛生行政の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の内容 ・社会福祉に関わる専門職種
6		2)衛生行政の変革・組織	
7	保健医療の動向	1)法制概論	<ul style="list-style-type: none"> ・公的扶助 ・老人福祉 ・母子福祉 ・障害者福祉
8		2)関連する医療関係者の身分に関する法	
9	衛生関係法	3)医療法・薬事に関する法	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士法の変革 ・歯科教育機関と職能団体
10		4)地域保健に関連する法・感染症に関する法	
11	保健医療の動向	5)感染症に関する法	<ul style="list-style-type: none"> ・保険者・被保険者・被扶養者 ・診療報酬審査支払機関 ・医療保険の種類 ・保険診療の流れ ・介護保険の仕組み
12		1)厚生関係統計調査	
13	社会福祉	2)国民の健康状態と受領状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
14		1)社会福祉の沿革	
15	歯科衛生士と法律	2)制度と法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
16		1)歯科衛生士国家試験	
17	衛生関係法	2)歯科医師法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
18		3)歯科技工士法	
19	医療法	1)食品安全、食育に関する法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
20		1)総則に関する事項	
21	医療保険	1)歯科衛生士と医療保険	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
22		2)医療保険の仕組み	
23	介護保険	1)歯科衛生士と介護保険	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
24		2)介護保険の仕組み	
25	介護保険	3)介護保険の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・今回の授業内容をふまえて ・テキストを用いて予習する
26			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生士学シリーズ 「保健・医療・福祉の制度」		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔衛生学Ⅱ(統計学含む)	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	荻野 芳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得し、関連する保険情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。</p> <p>【実務経験有】荻野 芳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域保健活動の方法を説明し、歯科保健活動計画を適用できる。 2. 母子、学校、産業、成人、老人におけるそれぞれの歯科保健活動について説明できる。 3. 歯科疾患実態調査の資料をポイントを絞って読み取ることができる。 4. 齲蝕、歯周疾患、歯垢、歯石の指数を表にまとめ、説明できる。 5. 歯科保健統計から歯科保健の現況を読み取り発表できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域口腔保健活動 基礎知識	1) 公衆歯科衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の保健医療を説明できる ・健康日本21を説明できる ・ヘルスプロモーションを理解する ・口腔保健の目標を説明できる
2		2) 健康日本21 3) 健康増進法 4) ヘルスプロモーション	
3	地域口腔保健	1) 市町村の歯科保健業務 2) 保健所の歯科保健業務	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の歯科保健業務を説明できる <p style="text-align: right;">★1、2、3回の確認テスト</p>
4	母子歯科保健	1) 妊産婦歯科健康診査 2) 1歳6か月児、3歳児歯科健康診査と保健指導	<ul style="list-style-type: none"> ・母子歯科保健の意義を説明できる ・乳幼児の歯科保健を説明できる
5	学校歯科保健	1) 歯・口腔の保健教育 2) 健康診断	<ul style="list-style-type: none"> ・学校歯科保健の意義を説明できる
6	産業歯科保健	1) 職業性歯科疾患 2) 産業歯科医	<ul style="list-style-type: none"> ・職業性歯科疾患を説明できる
7	成人・老人・要介護者・ 障害者歯科保健	1) 要介護者、障害者への歯科保健	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者への歯科保健指導を理解する <p style="text-align: right;">★4、5、6、7回の確認テスト</p>
8	歯科疾患の疫学と統計	1) 齲蝕の指数	<ul style="list-style-type: none"> ・齲蝕の指数を説明できる
9		2) 歯周疾患の指数	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患の指数を説明できる
10		3) 歯垢・歯石の指数	<ul style="list-style-type: none"> ・歯垢、歯石の指数を説明できる <p style="text-align: right;">★8、9、10回の確認テスト</p>
11	歯科疾患の疫学	1) 記述疫学	<ul style="list-style-type: none"> ・宿主、環境、病原要因と齲蝕の関係を説明できる ・宿主、環境、病原要因と歯周疾患の関係を説明できる <p style="text-align: right;">★11、12、13、14、15回の確認テスト</p>
12		2) 分析疫学	
13		3) 介入疫学	
14		4) スクリーニング	
15	5) 齲蝕の疫学 歯・宿主要因、環境要因、病原要因		
16	6) 歯周疾患の疫学 宿主要因、環境要因、病原要因		
17	歯科統計の基礎 歯科保健統計	1) 母集団と標本 2) 標本抽出法	
18		1) 国家統計調査の種類 2) 歯科疾患実態調査	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「保健情報統計学」 「保健生態学」 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 70% 2) 確認テスト : 20% 3) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
衛生学・公衆衛生学	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	太田 克子
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>健康の意義、人間集団の特徴、生活環境に関心を持ち、健康な地域生活に必要な環境状態と地域の保健活動の仕組みを学ぶ。</p> <p>【実務経験有】太田 克子: 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに医療と福祉に関する法制度を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1. 生活を取り巻く自然・社会環境や食生活をはじめとする生活習慣が我々の健康に大きく影響している。それらの様々な要因と健康の関係を学び、地域社会や集団で活用することによって健康に生かすことができる。</p> <p>2. 「歯、口腔の機能をどのように発揮するかによって、生涯の健康を大きく左右する」という事実を、他の多くの保健医療福祉関係者に伝え、連携し、健康の保持増進に寄与できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	総論	1) 衛生学・公衆衛生学の定義	・衛生・公衆衛生とは
2	人口	2) 健康の概念	・ヘルスプロモーションとノーマライゼーション
3	環境と健康	1) 人口に対する統計	・国勢調査、人口構造
4	公害	2) 人口動態統計・国際保健	・人口静態統計・人口動態統計
5	疫学	1) 環境と健康	・環境と健康の概念
6	感染症	2) 大気汚染とその種類	大気汚染物質・産業廃棄物
7	食品と健康	1) 疫学の定義	・疫学とその医学的根拠
8	生活習慣と健康	2) 疫学の方法論	・疫学研究の種類とその方法
9	地域保健	1) 感染症の正しい理解	・予防対策の動向
10	母子保健	2) 感染症の分類	・新興・再興感染症
11	学校保健	1) 国民栄養の現状	・食事摂取基準 国民健康栄養調査
12	成人・高齢者保健	2) 食育・食品衛生	・食育基本法 食品衛生法
13	産業歯科	1) 食中毒	・食中毒の種類
14	精神保健	2) 生活習慣病	・健康習慣
15	被災食	1) 地域保健の概念・枠組み	・地域包括ケアシステム
		2) 国民健康づくり対策	・保健所 市町村保健センター
		1) 母子保健法	・母子保健の指標
		2) 妊産婦乳幼児の管理	・母子健康手帳
		1) 学校保健の活動	・学校保健活動とその組織
		2) 学校保健の関係法規	・健康診断
		1) 成人・高齢者保健対策	・フレイル
		2) 介護保険制度	・日常生活圏
		1) 産業保健の法律	・職業病の種類
		2) 労働衛生管理体制	・設置条件
		1) 心の健康問題	・新オレンジプラン
		2) 精神障害の定義	・入院措置
		1) 国際保健	・国際交流と国際協力
		2) 災害時の保健医療活動	・災害拠点病院
		1) 危機管理対策	・災害時の食事
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・「デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 第2版」		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%	
		2) 確認テスト : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科予防処置実践実習	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	横井 敦子・小野 愛梨 太田 克子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識を習得する。臨地実習Ⅴに向けた事前学習として要介護高齢者の特長を理解し施設実習に望む知識、技術および態度を身に付けることを目的とする。 実習Ⅳに向けた事前学習として臨床科目における知識を確実に習得することを目的とする。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子・小野 愛梨・太田 克子(実務経験有): 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに臨床における歯科衛生士業務の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護高齢者の特長と高齢者施設について説明できる。 2. 口腔健康管理に使用する物品を留意点を理解したうえで使用できる。 3. 認知症の対応ができる 4. 臨床科目の知識を確実に理解し臨床実習で実践できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	キュレットの基礎動使	1) シックルスクレーパーとの違い	<ul style="list-style-type: none"> ・スクレーパーの種類 ・スクレーパーの分類 ・グレーシースクレーパーの部位別用途 ・グレーシースクレーパーの選択
2		2) ユニバーサルとグレーシーの違い	
3	キュレットスクレーリング	1) マネキン実習	<ul style="list-style-type: none"> ※ファントムと植立模型を使用した部位別マネキン実習
4		各部位における模型実習	
5			
6			
7	キュレットスクレーリング	1) マネキン実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジションと姿勢 ※ユニットと学模型を使用した部位別マネキン実習
8		各部位における模型実習	
9			
10			
11	キュレットスクレーリング	1) 相互実習	<ul style="list-style-type: none"> ※グループでの相互実習
12			
13			
14			
15			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 「歯科予防処理論・歯科保健指導論」「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック ・授業時配布テキスト		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 50% 2) 出席率 : 50%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態																																																																	
歯科保健指導論Ⅲ	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習																																																																	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																																	
15回	1単位(30時間)	必須	本田 里恵・太田 克子 (実務経験有)																																																																	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活習慣病の予防に応じた保健指導を行うために専門的知識を習得する。臨地実習Ⅴに向けた事前学習として要介護高齢者の特徴を理解し施設実習に臨むための知識、技術および態度を身に付けることを目的とする。 実習Ⅳに向けた事前学習として臨床科目における知識を確実に習得することを目的とする。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・太田 克子: 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに臨地実習の現場で必要な知識、技術及び態度を教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護高齢者の特徴と高齢者施設について説明できる。 2. 口腔健康管理に使用する物品を留意点を理解したうえで使用できる。 3. 認知症の対応ができる。 4. 臨床科目の知識を確実に理解し臨地実習で実践できる。 <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 40%;">内 容</th> <th style="width: 35%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">(予/保)Ⅲ編4章生活習慣の指導</td> <td>1)非感染性疾患(NCDs)</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病 ・歯周病と喫煙 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2)喫煙者に対する指導</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="2">(予/保)Ⅳ編2章配慮を要する者への歯科衛生介入</td> <td>3)ストレスマネジメント</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙と口腔疾患 ・喫煙状況のアセスメント </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4)認知機能の把握</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td rowspan="2">(ハンドブック)Ⅲ編</td> <td>5)口腔機能の把握</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・障害高齢者の日常生活自立度 ・口腔衛生介入の目標 ・介護者によるケアの目標 ・改訂BDR指標 ・ユマニチュード </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1)要介護高齢者の一般</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>認知症の理解(高齢者歯科学)</td> <td>2)要介護高齢者の口腔</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>口腔のケア(実習)</td> <td>3)要介護高齢者の歯科</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td rowspan="2">摂食嚥下リハ(在宅・介護施設)</td> <td>4)要介護高齢者の食生</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1)動画視聴</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td rowspan="2">歯科材料の種類と取り扱い</td> <td>2)認知症とは</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1)高齢者施設とは</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td rowspan="2">障害者の歯科診療補助</td> <td>2)口腔衛生用品の使用法</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 </td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>1)口腔機能管理の方法と手技の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td rowspan="2">歯科衛生士過程について</td> <td>2)印象用材料</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 </td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>3)歯冠修復用材料</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td rowspan="2">歯科衛生士過程に基づいた日誌記載の方法について</td> <td>4)模型用材料・仮封用材料</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 </td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>1)障害者の歯科治療</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td rowspan="2">歯科衛生士過程に基づいた日誌記載の方法について</td> <td>・対象者の状態把握と対応</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 </td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>1)臨地実習Ⅴに向けたオリエンテーション</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	(予/保)Ⅲ編4章生活習慣の指導	1)非感染性疾患(NCDs)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病 ・歯周病と喫煙 	2	2)喫煙者に対する指導	3	(予/保)Ⅳ編2章配慮を要する者への歯科衛生介入	3)ストレスマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙と口腔疾患 ・喫煙状況のアセスメント 	4	4)認知機能の把握	5	(ハンドブック)Ⅲ編	5)口腔機能の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・障害高齢者の日常生活自立度 ・口腔衛生介入の目標 ・介護者によるケアの目標 ・改訂BDR指標 ・ユマニチュード 	6	1)要介護高齢者の一般	7	認知症の理解(高齢者歯科学)	2)要介護高齢者の口腔	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 	8	口腔のケア(実習)	3)要介護高齢者の歯科	9	摂食嚥下リハ(在宅・介護施設)	4)要介護高齢者の食生	<ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 	10	1)動画視聴	11	歯科材料の種類と取り扱い	2)認知症とは	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 	12	1)高齢者施設とは	13	障害者の歯科診療補助	2)口腔衛生用品の使用法	<ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 	14	1)口腔機能管理の方法と手技の確認	15	歯科衛生士過程について	2)印象用材料	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 	16	3)歯冠修復用材料	17	歯科衛生士過程に基づいた日誌記載の方法について	4)模型用材料・仮封用材料	<ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 	18	1)障害者の歯科治療	19	歯科衛生士過程に基づいた日誌記載の方法について	・対象者の状態把握と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 	20	1)臨地実習Ⅴに向けたオリエンテーション
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																																	
1	(予/保)Ⅲ編4章生活習慣の指導	1)非感染性疾患(NCDs)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病 ・歯周病と喫煙 																																																																	
2		2)喫煙者に対する指導																																																																		
3	(予/保)Ⅳ編2章配慮を要する者への歯科衛生介入	3)ストレスマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙と口腔疾患 ・喫煙状況のアセスメント 																																																																	
4		4)認知機能の把握																																																																		
5	(ハンドブック)Ⅲ編	5)口腔機能の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・障害高齢者の日常生活自立度 ・口腔衛生介入の目標 ・介護者によるケアの目標 ・改訂BDR指標 ・ユマニチュード 																																																																	
6		1)要介護高齢者の一般																																																																		
7	認知症の理解(高齢者歯科学)	2)要介護高齢者の口腔	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 																																																																	
8	口腔のケア(実習)	3)要介護高齢者の歯科																																																																		
9	摂食嚥下リハ(在宅・介護施設)	4)要介護高齢者の食生	<ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 																																																																	
10		1)動画視聴																																																																		
11	歯科材料の種類と取り扱い	2)認知症とは	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 																																																																	
12		1)高齢者施設とは																																																																		
13	障害者の歯科診療補助	2)口腔衛生用品の使用法	<ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 																																																																	
14		1)口腔機能管理の方法と手技の確認																																																																		
15	歯科衛生士過程について	2)印象用材料	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 																																																																	
16		3)歯冠修復用材料																																																																		
17	歯科衛生士過程に基づいた日誌記載の方法について	4)模型用材料・仮封用材料	<ul style="list-style-type: none"> ・グラスアイオノマーセメント ・レジンセメント ・アルジネート印象材 ・合成ゴム質印象材 ・コンポジットレジン ・歯科用石膏の種類と用途 ・セメント系仮封剤 																																																																	
18		1)障害者の歯科治療																																																																		
19	歯科衛生士過程に基づいた日誌記載の方法について	・対象者の状態把握と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場としての理解 ・利用者を理解した上での関わり方 ・他職種との理解と歯科衛生士としての関わり方 																																																																	
20		1)臨地実習Ⅴに向けたオリエンテーション																																																																		
[使用テキスト]			事前学習																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科」「口腔外科・歯科麻酔 第2版」 ・「歯科診療補助論」 ・「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック ・授業時配布テキスト 			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する																																																																	
[単位認定の方法及び基準]		[試験等の評価方法]																																																																		
<ul style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 50% 2) 出席率 : 50% 																																																																				

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																							
救命救急法	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義・演習・実習																							
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者																							
8回	1単位(15時間)	必 須	久保 直美・鈴木 仁美 (実務経験有)																							
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 救命救急処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。</p> <p>【実務経験有】久保 直美・鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに歯科治療時の全身的偶発症やその対応について知識や技術を学生にを教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科治療時の全身的偶発症の概要を説明できる。 2. バイタルサインの測定ができる。 3. 一次救命処置について説明できる。 4. 一次救命処置が模型上で実施できる。 <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 15%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 35%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前学習</td> <td>1)本授業のねらいと学習内容 2)主な前進疾患とその対応</td> <td rowspan="8"> <ul style="list-style-type: none"> ・心疾患、高血圧、低血圧 ・歯科診療上での注意点 ・貧血 ・歯科診療上での注意点 ・血管迷走神経反射 ・バイタルサインの把握 ・モニタリング ・一次救命処置 ・二次救命処置 ・神経性ショックとその処置 ・過換気症候群とその処置 ・アナフラキシーショックとその処置 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="2">歯科衛生士がかかわる 医科疾患患者</td> <td>3)循環器疾患</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4)血液疾患</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td rowspan="3">救急蘇生法実習</td> <td>5)歯科治療時の全身的偶発症 1)救急処置 2)心肺蘇生術 3)その他の処置</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1)気道の確保 2)異物除去法・エアウェイの挿入</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3)人口呼吸法 4)胸骨圧迫マッサージ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>5)実習</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	事前学習	1)本授業のねらいと学習内容 2)主な前進疾患とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患、高血圧、低血圧 ・歯科診療上での注意点 ・貧血 ・歯科診療上での注意点 ・血管迷走神経反射 ・バイタルサインの把握 ・モニタリング ・一次救命処置 ・二次救命処置 ・神経性ショックとその処置 ・過換気症候群とその処置 ・アナフラキシーショックとその処置 	2	歯科衛生士がかかわる 医科疾患患者	3)循環器疾患	3	4)血液疾患	4	救急蘇生法実習	5)歯科治療時の全身的偶発症 1)救急処置 2)心肺蘇生術 3)その他の処置	6	1)気道の確保 2)異物除去法・エアウェイの挿入	7	3)人口呼吸法 4)胸骨圧迫マッサージ	8		5)実習
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																							
1	事前学習	1)本授業のねらいと学習内容 2)主な前進疾患とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患、高血圧、低血圧 ・歯科診療上での注意点 ・貧血 ・歯科診療上での注意点 ・血管迷走神経反射 ・バイタルサインの把握 ・モニタリング ・一次救命処置 ・二次救命処置 ・神経性ショックとその処置 ・過換気症候群とその処置 ・アナフラキシーショックとその処置 																							
2	歯科衛生士がかかわる 医科疾患患者	3)循環器疾患																								
3		4)血液疾患																								
4	救急蘇生法実習	5)歯科治療時の全身的偶発症 1)救急処置 2)心肺蘇生術 3)その他の処置																								
6		1)気道の確保 2)異物除去法・エアウェイの挿入																								
7		3)人口呼吸法 4)胸骨圧迫マッサージ																								
8		5)実習																								
				事前学習																						
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する																							
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																								
・歯科衛生学シリーズ 「高齢者歯科」「口腔外科・歯科麻酔 第2版」 「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・授業時配布テキスト		赤十字救急法基礎・救急員養成講習会講義を受け、演習に参加しているものが試験に参加できる 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%																								

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨地実習IV	歯科衛生学科/3年次	2026年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	9単位(405時間)	必須	太田 克子・小野 愛梨 鈴木 仁美・横井 敦子(実務経験有)
<p>〔授業の目的・ねらい〕 歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】太田 克子・小野 愛梨・鈴木 仁美・横井 敦子:歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに歯科衛生分野における知識、技術および態度を身につけることができるよう教授する。</p>			
〔 内 容 と 計 画 〕			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 配慮を要する者	総合病院	1.総合病院の特殊性を理解し有病者に対し配慮できる 2.医療安全管理の配慮した行動ができる 3.周術期において口腔健康管理の効果を理解する 4.口腔健康管理・摂食嚥下の支援・特殊環境下において対象者に応じた対応ができる	
2 乳幼児期～老年期	歯科診療所	1. 歯科医師、歯科衛生士からの指示内容を理解し、実践できる 2. 資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断できる 3. 対象者に応じた口腔健康管理ができる 4. 業務記録の記述ができる (詳細は「実習要綱」を参照)	
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」「小児歯科」「保健生態学」 ・歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」「障害者歯科学」 「口腔外科・歯科麻酔 第2版」 ・「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版」		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 1) 臨地実習指導者からの評価 : 60% 2) レポート内容および態度 : 40%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨地実習V	歯科衛生学科/3年次	2026年度/通年	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(90時間)	必須	太田 克子・小野 愛梨 本田 里恵・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を修得するために、歯科診療、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】太田 克子・小野 愛梨・本田 里恵・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに歯科衛生分野における知識、技術および態度を身につけることができるよう教授する。</p>			
[内 容 と 計 画]			
事前学習として「実習要綱」「オリエンテーション資料」を熟読し、課題に合格する。また、臨地実習後は課題レポートを提出し実習の学びを共有する。(詳細については「実習要綱」を参照)			
ライフステージ	実習施設	実習目標	
1 乳幼児期	保育所 (3歳～5歳)	1. 幼児期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健活動を理解する 2. 幼児期の身体や口腔機能の発達段階を理解する 3. 幼児期に応じたコミュニケーションがとれる	
2 老年期	地域連携	1. 過疎地域に密着した歯科医院ならではの取り組みを知る 2. 地域における歯科衛生士の役割を知る 3. 介護予防における歯科衛生活動を知る	
	地域包括支援センター	1. 健康教育の対象と場の特徴を説明できる 2. 地域支援事業における歯科衛生士の役割を知る 3. 地域支援事業における歯科衛生士と多職種の連携を知る	
	高齢者施設①	1. 高齢者施設における歯科衛生士の役割を理解する 2. 要介護者への口腔健康管理の実際を知る 3. 業務記録の記述ができる	
	高齢者施設②	1. 要介護高齢者の特性とニーズの把握ができる 2. 要介護高齢者を対象とした歯科衛生過程が展開できる 3. 要介護高齢者を対象とした健康教育が実施できる 4. 歯科衛生過程のプロセスを书面化して記録できる 5. カンファレンスの必要性を理解した発言ができる	
	3 配慮を要する者	特別支援学校	1. 障害児者の特性とニーズの把握ができる 2. 障害児者を対象とした歯科衛生過程が展開できる 3. 障害児者を対象とした健康教育が実施できる 4. 歯科衛生過程のプロセスを书面化して記録できる 5. カンファレンスの必要性を理解した発言ができる
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「小児歯科学」「保健生態学」「高齢者歯科学」 「障害者歯科学」「口腔外科・歯科麻酔 第2版」 「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」		※実習時間を満たさない場合は評価の対象にならない。 実習への参加状況および態度、日々の実習日誌、レポート等から総合的に評価する (詳細については評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
専門職連携演習	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	横井 敦子・中村 宥香 小野 愛梨・久保 直美(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>対象者中心の包括的なケアを行うために、歯科衛生士の視点から対象者の問題を考える。また、他職種や家族に対し口腔健康管理の内容を提案し実践するためのスキルを身につける。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子・中村 宥香・小野 愛梨・久保 直美:歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとにチーム医療に必要な知識および態度について学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者歯科における歯科衛生業務で歯科衛生過程を活用できる。 2. 障害者歯科における歯科衛生業務で歯科衛生過程を活用できる。 3. 在宅や高齢者施設における事例と歯科衛生過程を関連付けることができる。 4. 歯科衛生士の視点をもって、他職種と症例検討することができる。 			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生過程	1)歯科衛生過程とは	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内の観察 ・歯式の記入 ・主観的情報、客観的情報 ・情報処理、整理分析、解釈
2		2)歯科衛生アセスメント	
3		全身疾患	
4		生活評価	
5		認知症機能の評価	
6		栄養機能の評価	
7		口腔アセスメント	
8	リハビリテーションとは	3)歯科衛生診断	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の明確化 ・情報の統合 ・優先順位の決定 ・目標の設定 ・トータルリハビリテーション
9		4)歯科衛生計画立案	
10		5)歯科衛生介入・歯科衛生評価	
11	統合と実践	6)書面化	
12		1)リハビリテーションの考え方	
13		2)レクリエーション概論	
14		1)事例検討	
15		2)発表	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」「障害者歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 ・歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版 ・歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック		課題・レポート : 100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
歯科衛生学の統合と実践(前期)	歯科衛生学科/3年次	2026年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
前期15回	計2単位(60時間)	必須	本田 里恵・久保 直美 横井 敦子・鈴木 仁美(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>臨地実習および臨床実習の経験を踏まえ、各実習施設で学びと経験した実践を改めて教科書の内容と統合し知識と技術の再確認と、根拠の裏付けを行い今後の実習での実践力につなげることを目的とする。また、実習での学びを整理しパワーポイントで発表することで歯科衛生士に不可欠なわかりやすく伝える力、感じの良い表現力を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】本田 里恵・久保 直美・横井 敦子・鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに臨床における歯科衛生士業務の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習での学びを国家試験過去問を参考に各分野の教科書及び参考書を使用し根拠を理解することができる。 2. 歯科保健指導技術を発揮するためグループで協力できる。 3. 歯科衛生過程の思考を理解できる。 4. 実習後のリフレクションに主体性をもって取り組むことができる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	臨床実習で学んだ知識と技術の統合	1)統合と実践オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・概要と到達目標の確認 ・歯周組織の構造と理解 ・歯牙の特徴と異常歯 ・歯科臨床の基礎知識 ・保存治療の知識確認と実践 ・歯周治療の知識確認と実践 ・補綴治療の知識確認と実践 ・矯正治療の知識確認と実践 ・口腔外科治療の知識確認と実践 ・口腔衛生学の統合 ・歯科衛生業務に関する知識と実践の統合 ・小児における発達の知識 ・保健指導実践のための企画作成
2		1)基礎分野の知識の統合	
3		2)口腔の基礎知識	
4		1)臨床分野における統合	
5		2)カルテ病名についての復習	
6			
7			
8			
9			
10	臨床実習における学びの統合	1)学びの書面化	<ul style="list-style-type: none"> ・業務記録の書き方 ・自己目標の設定と自己評価の考え方
11		1)歯科衛生アセスメント	
12		2)歯科衛生診断	
13	実習リフレクション	3)歯科衛生計画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前の自己達成課題と考察 ・実習後の学び、自己課題と気づき ※一つの症例を基にパワーポイントを完成させ学年合同発表を行う。
14		4)歯科衛生介入	
15		5)歯科衛生評価	
		1)臨床実習の振り返り	
		2)実践した学びの可視化	
		3)伝え方、表現力	
		1)今後の目標	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「歯科診療補助論」 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 「保存修復・歯内療法」「歯周病学」「歯科補綴学」 「口腔外科・歯科麻酔 第2版」「歯科矯正学 第2版」 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 提出物・リフレクション発表内容 : 50% 2) 授業参加状況 : 50% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																																				
総合歯科医学セミナー	歯科衛生学科/3年次	2026年度/後期	講義・演習・実習																																																				
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者																																																				
15回	2単位 (30 時間)	必 須	岡村 純子 太田 克子・鈴木 仁美(実務経験有)																																																				
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>基礎分野と歯科臨床分野において総合的に学びを深めるため、国家試験出題基準を押さえたうえで、過去問から理解すべき重要なポイントについて学ぶ授業である。専門用語を理解することで、国家試験合格に繋げることを目的とする。</p> <p>【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、実務経験をもとに歯科医学に関する知識を総合的に学生に教授する。</p> <p>太田 克子・鈴木 仁美: 歯科衛生士の資格を活かし、実務経験をもとに歯科衛生学に関する知識を学生に教授する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体、歯の構造と機能についての復習ができる。 2. 病因の成り立ちが説明できる。 3. 歯科治療に使用する薬品の効果がわかる。 4. 基礎分野と臨床科目を関連付けることができる。 <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 40%;">内 容</th> <th style="width: 30%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能</td> <td>1)解剖学</td> <td rowspan="2">・専門用語を調べる ・専門用語を覚える</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2)生化学</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="3">疾病の成り立ち および回復過程の促進</td> <td>3)生理学</td> <td rowspan="3">・専門用語を調べる ・専門用語を覚える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4)病理学</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5)微生物学</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="4">歯・口腔の健康と予防 に関わる人間と社会の 仕組み</td> <td>6)薬理学 ・基礎分野過去問題プリント</td> <td rowspan="4">・専門用語を調べる ・専門用語を覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7)口腔衛生学</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>8)衛生・公衆衛生学 ・書き込み式学習ノート2社会歯科系科目編</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>9)栄養学</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td rowspan="10">臨床歯科医学</td> <td>10)歯科衛生士概論 ・専門分野分野過去問題プリント</td> <td rowspan="10">・専門用語を調べる ・専門用語を覚える ・放射線 ・歯科に関する臨床検査 ・全身疾患と関連する臨床検査</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>11)歯科臨床学</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>12)保存修復学</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>13)歯内療法学</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>14)歯周病学</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>15)歯科補綴学</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>16)口腔外科学</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>17)歯科矯正学</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>18)小児歯科学</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>19)高齢者歯科学</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>20)障害者歯科学</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能	1)解剖学	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える	2	2)生化学	3	疾病の成り立ち および回復過程の促進	3)生理学	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える	4	4)病理学	5	5)微生物学	6	歯・口腔の健康と予防 に関わる人間と社会の 仕組み	6)薬理学 ・基礎分野過去問題プリント	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える	7	7)口腔衛生学	8	8)衛生・公衆衛生学 ・書き込み式学習ノート2社会歯科系科目編	9	9)栄養学	10	臨床歯科医学	10)歯科衛生士概論 ・専門分野分野過去問題プリント	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える ・放射線 ・歯科に関する臨床検査 ・全身疾患と関連する臨床検査	11	11)歯科臨床学	12	12)保存修復学	13	13)歯内療法学	14	14)歯周病学	15	15)歯科補綴学	16	16)口腔外科学	17	17)歯科矯正学	18	18)小児歯科学	19	19)高齢者歯科学	20	20)障害者歯科学
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																																				
1	人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能	1)解剖学	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える																																																				
2		2)生化学																																																					
3	疾病の成り立ち および回復過程の促進	3)生理学	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える																																																				
4		4)病理学																																																					
5		5)微生物学																																																					
6	歯・口腔の健康と予防 に関わる人間と社会の 仕組み	6)薬理学 ・基礎分野過去問題プリント	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える																																																				
7		7)口腔衛生学																																																					
8		8)衛生・公衆衛生学 ・書き込み式学習ノート2社会歯科系科目編																																																					
9		9)栄養学																																																					
10	臨床歯科医学	10)歯科衛生士概論 ・専門分野分野過去問題プリント	・専門用語を調べる ・専門用語を覚える ・放射線 ・歯科に関する臨床検査 ・全身疾患と関連する臨床検査																																																				
11		11)歯科臨床学																																																					
12		12)保存修復学																																																					
13		13)歯内療法学																																																					
14		14)歯周病学																																																					
15		15)歯科補綴学																																																					
16		16)口腔外科学																																																					
17		17)歯科矯正学																																																					
18		18)小児歯科学																																																					
19		19)高齢者歯科学																																																					
20	20)障害者歯科学																																																						
[使用テキスト]			事前学習																																																				
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生学シリーズ 「保存修復・歯内療法」「小児歯科学」「薬理学」「病理学・口腔病理学」「歯科補綴学」「歯科矯正学 第2版」「高齢者歯科学」「口腔外科・歯科麻酔 第2版」「障害者歯科学」「解剖学・組織発生学・生理学」「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 ・complete 歯科衛生士国家試験完全攻略 ・徹底分析！年度別歯科衛生士国家試験問題集 2027年度版 			国家試験過去問題集に取り組み 教科書を調べておく																																																				
[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																							
<ul style="list-style-type: none"> 1) 最終筆記試験 : 80% 2) 授業参加状況 : 20% 																																																							

2026年度
授業進度計画

2026年4月1日 発行

学校法人穴吹学園
穴吹医療大学校
